

# 茨城県自然博物館総合調査報告書

-2015年 茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向 -

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology  
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum

- Trends of Insects and Other Terrestrial Invertebrates in 2015 -



Bando, Ibaraki, Japan  
November 2017

## はじめに

当館は県立の自然史系博物館であり、茨城県内の自然に関する情報を集積するための中核を担う機関のひとつとして、その役割を果たしてきた。当館では活動の基本方針に「地域自然の継続的調査研究」の推進を掲げ、開館以来、県内の動植物相、地学的特性およびそれらの保全状況などの情報を集める「総合調査研究」を行っている。また、この調査は情報の集積だけでなく、得られた情報を活用し、地域の自然環境に応じた生物多様性の保全を図るための活動につなげていこうとすることも目的としている。

「茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向」は、2008年に発行されてから今年度で8回目の発行であり、本報告書は2015年度の調査報告をまとめたものである。今回も各分野において精力的な調査が行われ、本県に生息する種の新たな知見や調査員がフィールドで感じた昆虫相の変化とその要因について報じられている。2015年9月には鬼怒川が氾濫し常総市では大きな被害を受けた。このような事象が生物に及ぼした影響を検討するためにも、つぶさに調査・記録することの重要性を感じている。

茨城の大地に生息する動植物の、より新しくかつ正確な情報を市民に提供し、地域に応じた保全活動を支援していくことはミュージアムパーク茨城県自然博物館の大きな使命のひとつである。

総合調査に参画した多くの方々の地道な調査研究に感謝申し上げますと共に、本書が各方面で広く活用されることを願ってやまない。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
館長 横山 一巳

## 目 次

総合調査研究について	1
「茨城県の昆虫類および その他の陸生無脊椎動物の動向」調査について	1
<b>昆虫類</b>	
トンボ目	2
バッタ目	7
ゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目	10
カメムシ目	12
カメムシ目（アブラムシ類）	14
アミメカゲロウ目	16
コウチュウ目	18
ハチ目	29
ハエ目（ハナアブ類）	31
トビケラ目	36
チョウ目（チョウ類）	42
チョウ目（ガ類）	45
<b>その他の無脊椎動物</b>	
茨城県自然博物館構内およびその周辺の虫えい	52
日本産洞穴性カニムシ類	57

## 総合調査研究について

ミュージアムパーク茨城県自然博物館が実施している「総合調査研究」は、茨城県内の動植物の分布や生息環境の特性、地質・気象などの地学的特性を把握し、それらの相互関係や変遷のメカニズムを解明するとともに、自然史資料の収集を図ることを目的とした調査研究活動である。当館では、総合調査研究を調査研究活動の中心として位置づけ、博物館が開館した1994年から実施している。1994～2005年の12年間をかけた第Ⅰ期総合調査研究では、茨城県全域を4地域に分け第1次から第4次の調査を実施し、県内の動植物と地学的特性についての調査を実施してきた。2006年からはじまった第Ⅱ期総合調査研究では、これまでの調査結果をもとに、茨城の自然の全体像を明らかにするために調査をすすめている。

茨城陸生無脊椎動物研究会には、茨城県の昆虫などをリストアップするために、県内の昆虫とその他無脊椎動物相の動向調査を委託してきた。それに係る一連の調査の中で、刻々と変化する昆虫相の変化を記録するために、2007年度末から「茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向」を毎年発行してきたが、本報告は2015年の成果をまとめたものである。

## 「茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向」調査について

茨城陸生無脊椎動物研究会は、県内の主に昆虫類とその他の陸生無脊椎動物のファウナを調べるために組織された団体で、研究者や在野の研究者20名で構成されている。県自然博物館からの調査委託を受けて、県内の昆虫類や土壌動物を中心とした無脊椎動物の分布や生息状況の動向を調査してきた。本報告は2015年度の調査結果をまとめたものである。

本研究会は、昆虫については、当面全体で約8,000種の記録を目指している。これまでに県内で記録された種数はまだ集計されていないが、実地調査や文献調査の努力によって、すでに6,000種は超えたものと推測される。毎年記録を更新しつつあるので、目標の種数もいずれは達成されるものと期待したい。中でも甲虫類は最大のグループであり、昨年度で当面目標の3,000種を超えたが、今年度は94種を追加して3,119種を記録することができた。その他のグループのうち2番目に大きなチョウ目の蛾類は、今年度80種も追加されて1,639種となった。これら2つのグループで4,758種に達した。

一方で、これまでにほぼ出尽くしたグループもある。その一つはトンボ類だが、今年度はエゾイトトンボが新たに記録された。チョウ目の蝶類もそのようなグループだが、近年、再侵入が認められたウスバシロチョウが、昨年度に引き続き八溝山で分布を拡げていることが確認された。また、亜高山性のエルタテハが八溝山からも記録されるなど、新たな発見もあった。カメムシ目では、アブラムシ類で2種が、アミメカゲロウ目ではクサカゲロウ科の1種が、また、ハチ目のハナバチ類で2種が追加された。ハエ目のアシナガバエ科では、つくば市や土浦市産の標本に基づき、4種が新種として記載された。トビケラ目は、八溝山の山頂下の沢で、3月から11月にかけて、トラップによる17回にわたる大規模な採集が行われ、大量の個体が採集された。その中には、未記載種と思われる種も数種見つかるなど大きな成果をあげた。バッタ目、ゴキブリ目、カマキリ目、ナナフシ目は種数の増加はなかったが、既知種の分布や生息状況について新たな情報もたらされた。

甲虫類と蛾類を除くと劇的な新記録種の増加はなかったが、既知種の新産地や分布域の拡大・縮小、温暖化による南方系種の北進など、分布や生態に関するきめ細かい貴重な記録がたくさん報じられており、今後における本県のファウナや生物多様性の研究に大きな役割を果たすことが期待される。

その他の無脊椎動物については、県自然博物館の構内と周辺における19種の虫癭が報告された。虫癭の主にはアブラムシ、ワタムシ、タマバチ、タマバエなどの昆虫類とフシダニが含まれていた。また、日本の洞穴性カニムシ23種の報告があったが、残念ながらこの中に本県を産地とする種はなかった。

限られたスタッフで、全ての分類群をカバーするのは困難であるが、主要なグループについては年次調査の積み重ねにより、本県におけるファウナの輪郭が次第に明らかになりつつある。多くの地域で、生息地の消失や劣化により生物多様性が急速に失われつつあるのに加え、外来種の侵入による攪乱、温暖化による北進など、多くの問題を抱えているので、動物相の経年変化を克明に記録することは、一層大きな意味をもってきている。

(茨城陸生無脊椎動物研究会代表 山根爽一)

## トンボ目

廣瀬 誠

### 2015年のトンボ目昆虫の動向

#### 1. 水戸市千波湖とその周辺のトンボ

年頭より定例的に、月2回の巡視観察記録の集計し、8科17種を観察できた。

##### アオイトトンボ科 **Lestidae**

##### 1. ホソミオツネトンボ

*Indolestes peregrinus* (Ris, 1916)

##### カワトンボ科 **Calopterygidae**

##### 2. ニホンカワトンボ

*Mnais costalis* Selys, 1869

##### 3. ハグロトンボ

*Calopteryx atrata* Selys, 1853

##### モノサシトンボ科 **Platycnemididae**

##### 4. モノサシトンボ

*Copera annulata* Selys, 1863

##### イトトンボ科 **Coenagrionidae**

##### 5. アジアイトトンボ

*Ischnura asiatica* Brauer, 1865

##### ヤンマ科 **Aeshnidae**

##### 6. マダラヤンマ

*Aeshna mixta soneharai* Asahina, 1988

##### 7. ギンヤンマ

*Anax parthenope julius* Brauer, 1865

##### 8. クロスジギンヤンマ

*Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*

##### サナエトンボ科 **Gomphidae**

##### 9. ウチワヤンマ

*Sinictinogomphus clavatus clavatus* Fabricius, 1775

##### 10. コサナエ

*Trigomphus melampus* Selys, 1869

##### オニヤンマ科 **Cordulegastridae**

##### 11. オニヤンマ

*Anotogaster sieboldii* Selys, 1854

##### トンボ科 **Libellulidae**

##### 12. ノシメトンボ

*Sympetrum infuscatum* Selys, 1883

##### 13. アキアカネ

*Sympetrum frequens* Selys, 1883

##### 14. コフキトンボ

*Deielia phaon* Selys, 1883

##### 15. ウスバキトンボ

*Pantala flavescens* Fabricius, 1798

##### 16. シオカラトンボ

*Orthetrum albistylum speciosum* Uhler, 1858

##### 17. シオヤトンボ

*Orthetrum japonicum japonicum* Uhler, 1858

#### 2. 東海村のトンボ調査の中間的集計(予報)

2013年から定期的な分布調査などを継続し、トンボ目昆虫の成虫による観察記録を行い、下記の10科34種を確認できた。

##### アオイトトンボ科 **Lestidae**

##### 1. ホソミオツネトンボ

*Indolestes peregrinus* (Ris, 1916)

##### 2. アオイトトンボ

*Lestes sponsa* Hanseemann, 1823

##### カワトンボ科 **Calopterygidae**

##### 3. ニホンカワトンボ

*Mnais costalis* Selys, 1869

##### 4. ハグロトンボ

*Calopteryx atrata* Selys, 1853

モノサシトンボ科 **Platycnemididae**

5. モノサシトンボ  
*Copera annulata* Selys, 1863

イトトンボ科 **Coenagrionidae**

6. キイトトンボ  
*Ceriagrion melanurum* Selys, 1876
7. オゼイトトンボ  
*Coenagrion terue* Asahina, 1949
8. クロイトトンボ  
*Cercion calamorum calamorum* (Ris, 1916)
9. アオモンイトトンボ  
*Ischnura senegalensis* Rambur, 1842
10. アジアイトトンボ  
*Ischnura asiatica* Brauer, 1865

ヤンマ科 **Aeshnidae**

11. サラサヤンマ  
*Sarasaeschna pryeri* (Martin, 1909)
12. アオヤンマ  
*Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883
13. ギンヤンマ  
*Anax parthenope julius* Brauer, 1865
14. クロスジギンヤンマ  
*Anax nigrofasciatus nigrofasciatus* Oguma, 1915

サナエトンボ科 **Gomphidae**

15. ウチワヤンマ  
*Sinictinogomphus clavatus clavatus* Fabricius, 1775
16. コサナエ  
*Trigomphus melampus* Selys, 1869
17. ヤマサナエ  
*Asiagomphus melaenops* Selys, 1854

ムカシヤンマ科 **Petaluridae**

18. ムカシヤンマ  
*Petalura ingentissima* Tillyard, 1908

オニヤンマ科 **Cordulegastridae**

19. オニヤンマ  
*Anotogaster sieboldii* Selys, 1854

ヤマトンボ科 **Macromiidae**

20. コヤマトンボ  
*Macromia amphigena* Selys, 1871

トンボ科 **Libellulidae**

21. チョウトンボ  
*Rhyothemis fuliginosa* Selys, 1883
22. ナツアカネ  
*Sympetrum darwinianum* Selys, 1883
23. ノシメトンボ  
*Sympetrum infuscatum* Selys, 1883
24. アキアカネ  
*Sympetrum frequens* Selys, 1883
25. マユタテアカネ  
*Sympetrum eroticum eroticum* Selys, 1883
26. マイコアカネ  
*Sympetrum kunkeli* Selys, 1884
27. コシアキトンボ  
*Pseudothemis zonata* (Burmeister, 1839)
28. コフキトンボ  
*Deielia phaon* Selys, 1883
29. ショウジョウトンボ  
*Crocothemis servilia* Drury, 1773
30. ウ斯巴キトンボ  
*Pantala flavescens* Fabricius, 1798
31. ハラビロトンボ  
*Lyriothemis pachygastra* Selys, 1878
32. シオカラトンボ  
*Orthetrum albistylum speciosum* Uhler, 1858
33. オオシオカラトンボ  
*Orthetrum friangulare melania* (Selys, 1883)
34. ヨツボシトンボ  
*Libellula quadrimaculata* Linnaeus, 1758

## トンボ目

渡辺 健

### 2015年のトンボ目昆虫の動向

2015年は気象の変動幅が大きく、全国各地で豪雨による甚大な被害が生じた。なかでも本県では9月10～11日に鬼怒川の堤防が決壊して常総市に大水害をもたらした(平成27年9月関東・東北豪雨)。人間にとってはなすすべもない大自然の驚異であるが、水環境に依存する昆虫相にどのような影響を及ぼすのだろうか。今後注意深く調査を行う必要がある。

本年は4月下旬から気温は高めに推移し、5月は記録的な「高温・多照」の1ヶ月となった。従来、城里町御前山近辺のムカシトンボ *Epiophlebia superstes* の出現最盛期は5月上旬のゴールデンウィークからその翌週で、林道上で多くの飛翔・摂食個体を観察することができる。しかし、本年は4月下旬に本種の羽化を観察していたものの、ゴールデンウィークにはほとんど林道上の飛翔個体がみられなかった。このことから、出現最盛期がかなり前倒しになっていたような感がある。大子町や北茨城市の県北山間地においても5月2日前後に多くの飛翔個体を観察でき、本種の出現最盛期は平年より1週間ほど早かったと考えられる。

常陸太田市(旧金砂郷町)の山田川流域で5月上旬に水網を用いてアオハダトンボ *Calopteryx japonica*、キイロヤマトンボ *Macromia daimoji*、コヤマトンボ *Macromia amphigena*、アオサナエ *Nihonogomphus viridis* などの幼虫の生息を確認した。また、さらに上流域(旧水府村)で5月中旬にコシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* の幼虫を確認し、8月下旬には複数の成虫飛翔個体を観察することができた。山田川水系における本種の記録は初めてと思われる。

コシボソヤンマは、以前常陸大宮市の相川周辺に多くみられたが、生息地は御前山ダムの開発によって水没し、個体数は激減した。一方、ひたちなか市

海浜公園の沢田湧水では、狭い環境ではあるものの、本種の生息が維持されている。沢田湧水では、オゼイトトンボ *Coenagrion terue* やハネビロエゾトンボ *Somatochlora clavata*、ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai* の生息も維持されており、極めて貴重な場所である。

城里町鈴高野の休耕田は、モートントンボ *Mortonagrion selenion*、オゼイトトンボ *Coenagrion terue*、ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea*、ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* などの湿地性トンボ目昆虫が多く見られたが、本年の調査ではイノシシの「ぬた場」となって荒廃しており、トンボ目昆虫の数は激減した。なかでもハッチョウトンボに対する影響は大きく、本種の生息を確認することはできなかった。しかし、この場所で今まで確認できなかったヨツボシトンボを観察した。個体数は1頭のみであったため、近隣の生息地からの飛び込み個体と考えられる。

平地性トンボ目昆虫が数多く生息する那珂市鴻巣の文洞溜池では、環境省レッドリストで絶滅危惧I類に指定されているコバネアオイトトンボ *Lestes japonicus* が継続的に発生している。前年度、池の護岸工事が行われたが、本種の動向に対する影響は認められなかった。今後、本種を保全するために、池周囲の植生環境などを維持・管理できるような体制づくりが必要である。

那珂川沿岸に位置するひたちなか市(旧勝田市)の台地の斜面には複数の池沼が存在する。これらは水田灌漑用の溜池で、古くから存在する。なかには植生の豊かな池もあり、希少なトンボ目昆虫の生息の可能性が窺えるが、ほとんどの池は足場がなく調査は極めて困難である。金上の池では複数のギンヤンマ *Anax parthenope julius* やオオヤマトンボ *Epopthalmia elegans elegans*、ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus clavatus* に混じって飛翔するマルタンヤンマ *Anaciaeschna martini*、マダラヤ

ンマ *Aeshna mixta soneharai* を確認した。この地域の調査事例は少ないため、今後さらに調査を続けたい。

後藤・二橋 (2015) は、本年7月に常陸太田市里川町で採集したエゾイトトンボ *Coenagrion lanceolatum* を本県初記録として報じた。採集個体は1♂のみで、多くのオゼイトトンボに混じってみられたという。採集個体は、核DNAおよびミトコンドリアDNA解析により本種であることが裏付けられている。今後、さらなる生息調査が必要であるが、本県のトンボ相に新たな種が加えられた。これにより本県で採集されたトンボ目昆虫は92種となった(移入種を除く)。

本年度、茨城県版レッドリストの改訂が行われ、トンボ目昆虫では絶滅3種、絶滅危惧IA類4種、絶滅危惧IB類2種、絶滅危惧II類8種、準絶滅危惧20種の合計37種がリストアップされた。前回のレッドデータブック(平成11年度)では、絶滅種1種、絶滅危惧種2種、危急種2種、希少種8種の合計13種に比較して、今回は指定種が約2.8倍に増加している。

各種トンボ目昆虫の生息地では、開発による池沼の埋め立て、改修工事による植生の変化、管理不足による荒廃、外来魚の放流などの理由により生息地の減少や生息環境の悪化が見られる。特に、震災以降、農業用溜池は浚渫工事や護岸工事が積極的に行われ、植生破壊が著しい。また、温暖化による降雪の減少などの気象要因が大きく影響していると考えられる山間地域の貴重な湿地が失われつつある。

今回のレッドリスト掲載種は以下のとおりである。

### 絶滅

#### サナエトンボ科 Gomphidae

##### 1. メガネサナエ

*Stylurus oculatus* (Asahina, 1949)

#### トンボ科 Libellulidae

##### 2. オオキトンボ

*Sympetrum uniforme* (Selys, 1883)

##### 3. ベッコウトンボ

*Libellula angelina* Selys, 1883

### 絶滅危惧 IA 類

#### アオイトトンボ科 Lestidae

##### 4. コバネアオイトトンボ

*Lestes japonicus* Selys, 1883

#### イトトンボ科 Coenagrionidae

##### 5. ベニイトトンボ

*Ceriagrion nipponicum* Asahina, 1967

##### 6. オオセスジイトトンボ

*Paracercion plagiosum* Needham, 1930

##### 7. ヒヌマイトトンボ

*Mortonagrion Hirosei* Asahina, 1972

### 絶滅危惧 IB 類

#### モノサシトンボ科 Platycnemididae

##### 8. オオモノサシトンボ

*Copera tokyoensis* Asahina, 1955

#### トンボ科 Libellulidae

##### 9. キトンボ

*Sympetrum croceolum* (Selys, 1883)

### 絶滅危惧 II 類

#### アオイトトンボ科 Lestidae

##### 10. オツネトンボ

*Sympetma paedisca* (Burauer, 1877)

#### ヤンマ科 Aeshnidae

##### 11. ネアカヨシヤンマ

*Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

#### サナエトンボ科 Gomphidae

##### 12. モイワサナエ

*Davidius moiwanus moiwanus* (Matsumura et Okumura, 1935)

#### エゾトンボ科 Corduliidae

##### 13. タカネトンボ

*Somatochlora uchidai* Forester, 1909

##### 14. ハネヒロエゾトンボ

*Somatochlora clavata* Oguma, 1913

#### ヤマトンボ科 Macromiidae

##### 15. キイロヤマトンボ

*Macromia daimoji* Okumura, 1949

#### トンボ科 Libellulidae

##### 16. リスアカネ

*Sympetrum risi risi* Bartenev, 1914



17. ヒメアカネ  
*Sympetrum parvulum* (Bartenev, 1912)  
 準絶滅危惧  
 カワトンボ科 **Calopterygidae**
18. アオハダトンボ  
*Calopteryx japonica* Selys, 1869  
 イトトンボ科 **Coenagrionidae**
19. キイトトンボ  
*Ceriagrion melanurum* Selys, 1876
20. オゼイトトンボ  
*Coenagrion terue* Asahina, 1949
21. セスジイトトンボ  
*Paracercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865)
22. ムスジイトトンボ  
*Paracercion melanotum* (Selys, 1876)
23. モートンイトトンボ  
*Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)  
 ムカシトンボ科 **Epiphlebiidae**
24. ムカシトンボ  
*Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)  
 ヤンマ科 **Aeshnidae**
25. サラサヤンマ  
*Sarasaechna pryeri* (Martin, 1909)
26. アオヤンマ  
*Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883
27. マダラヤンマ  
*Aeshna mixta soneharai* Asahina, 1988
28. ルリボシヤンマ  
*Aeshna juncea juncea* (Linnaeus, 1758)  
 サナエトンボ科 **Gomphidae**
29. キイロサナエ  
*Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)
30. ナゴヤサナエ

*Stylurus nagoyanus* (Asahina, 1951)  
 エゾトンボ科 **Corduliidae**

31. トラフトンボ  
*Epitheca marginata* (Selys, 1883)  
 トンボ科 **Libellulidae**
32. コノシメトンボ  
*Sympetrum baccha matutinum* Ris, 1911
33. ミヤマアカネ  
*Sympetrum pedemontanum elatum* (Selys, 1872)
34. ネキトンボ  
*Sympetrum speciosum speciosum* Oguma, 1915
35. ハッチョウトンボ  
*Nannophya pygmaea* Rumbur, 1842
36. ハラビロトンボ  
*Lyriothemis pachygastra* (Selys, 1878)
37. ヨツボシトンボ  
*Libellula quadrimaculata asahinai* Schmidt, 1957

#### 引用文献および 2015 年のトンボ目昆虫の文献

2015 年に印刷されたトンボ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

- 後藤日出人・二橋 亮. 2015. 茨城県からエゾイトトンボ（トンボ目，イトトンボ科）を初記録. 茨城県自然博物館研究報告, (18): 53-55.
- 軍司 平. 2015. 日立市でネキトンボを採集. るりぼし, (44): 122.
- 野崎 武. 2015. ネキトンボの採集・撮影記録について. おけら, (68): 128.
- 櫻井 浩. 2015. 平野部（小美玉市）におけるルリボシヤンマの記録. るりぼし, (44): 122.
- 矢ノ倉 奨・矢ノ倉鉄也. 2015. 水戸市でアオサナエを採集. るりぼし, (44): 123.

## バッタ目

井上 尚武

### 2015年のバッタ目昆虫の動向

バッタ目はチョウやトンボ類などと比較すると研究者や愛好者が少ないために分布や生息状況に関するデータが比較的少なく、2015年の傾向というよりも、調査の進捗状況の記録という意味合いが強いことをあらかじめお断りしておく。この点は今まで毎年報告してきた記載内容も同じである。

#### 1. 注目すべき種について

##### キリギリス科 Tettigoniidae

カヤキリ *Pseudorhynchus japonicus* は茨城県版レッドデータブック (茨城県生活環境部, 2000) において希少種 (R) にランクされているが、本県は北限に近いためか県北では比較的少ない。以下のように北茨城市で鳴き声を聴いた。

2♂ (鳴き声), 5. IX. 2015, 北茨城市中郷町・汐見ヶ丘団地付近, 井上尚武。

本県ではひたちなか市以南の平野部で、比較的鳴き声が聴かれ、8月10日にもひたちなか市内で聴いた。生息地はシブイロカヤキリと似ており、宅地造成地や河川敷、幹線道路のススキ原であり、特に少ないという印象を受けない。本種の太平洋側における北限については井上 (2015a) が、岩手県における鳴き声の記録について検討を試みたが、日本海の北限については永幡・高嶋 (2014) が、2014年時点では新潟県村上市としながらも、今後山形県にまで分布拡大することを予想している。

##### コオロギ科 Gryllidae

コガタコオロギ *Velarifictorus ornatus* (県版レッドデータブック動物編, 2000) を2015年7月14日にひたちなか市馬渡町で、成虫1♂1♀を採集し別々に分けて飼育したところ、10日以内に産卵するのを観察した。7月30日に、この雌雄を同じ水槽に

入れたところ交尾し、雄が精球を雌に与えた (図1)。その後も産卵したようであるが、8月3日にはすでに多数の幼虫がふ化しているのを観察した (図2)。採集直後から飼育器に産卵したはずなので、卵期間は2週間前後と推定された。本種は幼虫で越冬し初夏に成虫が出現するが、その後も継続して飼育したところ飼育条件下であるが、11月上旬にはほとんど終齢幼虫となった。このうち1♀のみが例外的に羽化した。伊豆諸島などの暖地では秋に2化目が出現するという (日本直翅類学会, 2006) が、上記の結果は茨城県では基本的に1化性であり、少なくとも飼育下では希に2化目が出現することを示唆している。本種の北限は現在茨城県なので、北限の生息地における産卵時期や卵期間などの1例として、ここに記録しておく。



図1. 飼育下のコガタコオロギの交尾 (2015年7月30日, 井上尚武撮影)。



図2. 飼育下でふ化したコガタコオロギの2齢幼虫 (2015年8月10日, 井上尚武撮影)。

### マツムシ科 Eneopteridae

茨城県版レッドデータブック(茨城県生活環境部, 2000)において希少種(R)とされているカヤコオロギ *Euscirtus japonicus* の新産地を以下のように採集し確認した。

7exs 幼虫, 8. VIII. 2015, 常陸大宮市野中, 井上尚武.

生息地はチガヤの優占する適度に管理された草地である。本種は県内で従来2か所程度しか産地が知られていなかった。

### ヒバリモドキ科 Trigonidiidae

ナギサスズ *Caconemobius sazanami* は今までひたちなか市(井上, 1985)など2か所から記録されていたが, 以下のように新産地を記録した。

1♂2♀, 6. XI. 2015, 高萩市高戸, 井上尚武.

本種は茨城県版レッドデータブック(茨城県生活環境部, 2000)において危急種(V)にランクされているが, 県内の岩礁地帯や消波ブロックの設置された海岸には少なからず生息していると思われる。従来, 生息記録が少なかったのは, 成虫の発生シーズンである8月から9月にかけての夜間調査が少なかったためではないかと思われる。

### バッタ科 Acrididae

ハネナガイナゴ *Oxya japonica* は, 近年北関東や福島県では広範囲に生息していることが明らかになっているが, 2015年は以下の地域で確認した。

1♂1♀(写真撮影), 6. IX. 2015, 北茨城市関南町神岡上, 井上尚武.

1♂(写真撮影), 5. IX. 2015, 日立市十王町・伊師浜海岸, 井上尚武.

1♀, 2. IX. 2015, 東海村須和間, 井上尚武.

1♂1♀, 11. VIII. 2015, 水戸市三湯町, 井上尚武.

2♀, 11. VIII. 2015, 笠間市上市原, 井上尚武.

1♂2♀, 11. VIII. 2015, 笠間市稲田, 井上尚武.

1♂2♀, 11. VIII. 2015, 桜川市女方, 井上尚武.

1♂2♀, 11. VIII. 2015, 桜川市上野原, 井上尚武.

1♀, 11. VIII. 2015, 筑西市布川房山, 井上尚武.

なお隣接県であるが, 長谷川(2015)は栃木県におけるハネナガイナゴの増加の原因について, 水稻

栽培の早期化と鳥類(カラス・サギ類)による捕食が, 産卵期の早いハネナガイナゴに有利に影響したのではないかと推測している。この論文の中で近県の現状として文献からの引用で埼玉県, 東京都, 神奈川県について触れているが, 筆者の茨城県における報告についてはまったく触れていない。

### 引用文献

茨城県生活環境部. 2000. 茨城県における絶滅の恐れのある野生生物(動物), 195pp.

井上尚武. 1985. ウミコオロギとヒロバネカンタン 北関東に産す, 昆虫と自然, 20(14):7-8.

井上尚武. 2015a. 岩手県のカヤキリについて, InsecTOHOKU, (37):14-16.

永幡嘉之・高嶋清明. 2014. 分布拡大する都市の直翅類, 消えゆく草原の直翅類~山形県での最近の観察から~, 月刊むし, (523):20-24.

日本直翅類学会(編). 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, 687pp. 北海道大学出版会.

長谷川順一. 2015. 栃木県におけるハネナガイナゴの増加とその原因, 月刊むし, (529):43-47.

### 2015年のバッタ目昆虫の文献

2015年に印刷されたバッタ目に関する文献は以下の通りである。なお発表順に解説するので著者名は前後する。

井上(2015b)は, 日立自然友の会会報「のびる」に日立市助川山で開催された観察会で目撃および写真撮影した昆虫について44種のリストを掲げ, うちバッタ目については26種挙げた。さらに10数種のバッタ類について県内の分布を簡単に解説した。このうちヤブキリ類は県内に2種(ヤブキリとヤマヤブキリ)あり, 長鳴型(ジーと伸ばして鳴く)であるヤブキリの鳴き方に3通りの違いがあることに触れた。

大内(2015)は上記の会誌に, 2014年に写真撮影した昆虫について書き, バッタ類については日立市から14種ほど目撃し, この中でウスグモズが日立市内の自宅の庭に生息していることに触れ, 繁殖している可能性を指摘した。いずれにしても本種

の日立市内からの記録は初めてと思われる。

井上 (2015c) は従来記録がなかった筑西市の鬼怒川河川敷からカワラバッタを記録した。同時に過去の文献記録を検討し、過去において県産目録から一時除かれた理由にも触れた。

井上 (2015d) は従来記録がなかったウスモンナギサズを茨城県ひたちなか市の海岸から記録したが、この時の観察で生息地から 50m ほど離れた場所まで移動した個体が複数いることを報告した。

井上尚武. 2015b. 助川山市民の森で観察した昆虫, のびる, (25): 33-40.

井上尚武. 2015c. 茨城県筑西市のカワラバッタ, 月刊むし, (536):61.

井上尚武. 2015d. 茨城県でウスモンナギサズを採集, 月刊むし, (538): 19.

大内正典. 2015. 虫との出会い, のびる, (25): 41-53.

## ゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目

井上 尚武

### 2014・2015年のゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目昆虫の動向

ゴキブリ目とカマキリ目について若干の知見が得られたので、以下に概要を述べる。ナナフシ目については注目すべき種の記録がなかった。

なお2014年はこの仲間に関する報告をしなかったため、2015年と合わせて報告する。

#### ゴキブリ目 Blattodea

近年県内で分布記録が増えているモリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica* を、以下のように新たな地区で採集または確認した。

1ex, 幼虫目撃, 29. IX. 2014, ひたちなか市中根・虎塚古墳, 井上尚武。

幼虫多数目撃, 3. XI. 2014, かすみがうら市下稲吉, 井上尚武。

1ex, 27. VII. 2014, 潮来市大生, 井上尚武。

1ex, 目撃, 15. VIII. 2014, 神栖市東深芝, 井上尚武。  
幼虫多数目撃, 26. VIII. 2014, 神栖市神栖4, 井上尚武。

#### カマキリ目 Mantodea

ハラビロカマキリ *Hierodula patelifera* を高萩市で目撃した。

1♀成虫(目撃), 17. XI. 2015, 高萩市高萩, 井上尚武。

この個体は茨城県立高萩高等学校2学年の男子生徒が校内で採集し教室に持ち込んだものであるが、適切な指示をしなかったために写真撮影する前に生徒が校舎のベランダから屋外へ逃がしてしまった。これは生き物の命を大切にしようという小学校から継続する本県の教育目標による成果なので、生徒にとっては正しい行為である。

この個体はその後付近を探したが見つからなかった。採集した生徒の話によると、何度かほかにも同

じカマキリを採集したことがあるという。同地にすでに定着していると考えられる。その後、高萩市周辺で目撃や採集の情報は得られなかった。この記録は現在筆者の知る茨城県内の記録としては最も北となる。日立市内からは筆者も採集したことがあり、また大内正典氏の情報でも日立市内で目撃しているという。福島県からは正式な報告はないようであるが、ウェブサイトではすでに、いわき市内で撮影した写真が公表されているので再調査が必要である。

### 2014・2015年のゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目昆虫の文献

2015年に印刷されたゴキブリ目、カマキリ目に関する文献は以下の通りである。ナナフシ目については引用可能な報告が見あたらなかった。

廣瀬(2015)は茨城県のゴキブリ6種(クロゴキブリ、ヤマトゴキブリ、ヨウランゴキブリ、チャバネゴキブリ、モリチャバネゴキブリ、オオゴキブリ)の目録とともに分布記録、解説を加え報告した。この中でヨウランゴキブリ *Shelfordina orchidae* を水戸市から2か所、美野里町(現小美玉市)から1か所記録したが、本種は従来茨城県から記録がなかったと思われる。標本の一部は原記載者の朝比奈正二郎博士が同定した。茨城県におけるこの仲間の報告は少ないので、今後の調査の進展とともに続報が期待される。

富岡・佐竹・谷川(2015)はモリチャバネゴキブリの分布北限を調査し、茨城県では北茨城市関本町に多産し、福島県富岡町赤木まで確認したという。

井上(2015)は助川山市民の森で観察した昆虫のリストの中にオオカマキリを挙げた。

廣瀬 誠. 2015. 茨城県のゴキブリ(予報), 茨城生物, (35): 33-39.

井上尚武. 2015. 助川山市民の森で観察した昆虫,

のびる, (25): 33-40.

富岡康浩・佐竹宏康・谷川 力. 2015. モリチャバ  
ネゴキブリの分布北限の調査記録. 第67回日本  
衛生動物学会東日本支部大会プログラム・口演要  
旨 (2015) : 21.

## カメムシ目

成田 行弘

### 2015年のカメムシ目昆虫の動向

近年は、地球温暖化の影響によると考えられる本県への昆虫類の北進とともに、外来種の本県への侵入が顕著になっている。カメムシ類に興味を示す市民や研究者は多くはないとはいえ、比較的大型であるこれら各種は、目に留まりやすく、時に関心を呼ぶグループである。

ここでは、水戸市や周辺部における近年、本県に侵入した数種のその後の動静を紹介する。

また、上記の種群とは対照にある、本県での生息が危ぶまれる状況にある2種の調査結果について報告したい。

#### 1. 本県に定着しつつある北進を続けるカメムシ類について

ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* は、2008年(平成20年)から2010年(平成22年)頃の水戸市街地やその近郊での日常生活において、最も目に留まったカメムシ類で、一般に普通種と言われるクサギカメムシ *Halyomorpha halys* やチャバネアオカメムシ *Plautia stali* などより普通に見られたといえるほどであった。2015年(平成27年)においては、その発生量は明らかに減少した。しかし、姿を消したわけではなく、郊外の雑木林の林縁など、市街地から離れた場所で観察することが増えている。

地域の動物相を構成する一員としての地位を築いたものと考えられる。

ミナミトゲヘリカメムシ *Paradasynus spinosus* は、2010・11年(平成22・23年)において、水戸市周辺において姿を見ることができた。筆者は、これ以降水戸市周辺でその姿を見ていない。この両年のいずれの記録も晩夏～秋口の観察であり、少なくとも水戸市周辺での越冬例もないことから、これら個体は、県外あるいは県南地域からの飛来個体である可能性が高い。2015年の本種の県南地域等での

発生を確認していないが、本県への定着状況を明らかに詳らかにすることが求められる。

マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* は、北米原産の種で、マツの実などを食するとされる。水戸市近郊では、付近にマツが見られないような場所においても、やや普通にその姿を見るようになった。2015年は、水戸市中心部を含めた市街地から、人里離れたといえる森林内でも姿を見出した。しかし、これらの記録は、10月以降のものであり、本県で越冬した個体の越冬後の発生サイクルを明らかにすることは、外来種が新たな土地に定着していく過程を記すうえで意義があることと思う。本県での周年経過に注目したい。

#### 2. カメムシ科2種の分布調査について

継続的に調査を続ける2種について報告する。

イシハラカメムシ *Chalazonotum ishiharai* は、ミツバウツギを食樹とするカメムシ科の1種で、常陸大宮市の御前山周辺で見られた種で、全国的にも稀種といえる。この地では、御前山ダム造成に伴う食樹の伐採や、水域近くに生育する食樹をとりまく水環境が変化しており、食樹の減少も危惧される状況にある。

2015年は、追跡調査として、食樹の開花期とともに、本種幼虫がその「実」内に生息する可能性があることから、その結実期に御前山に連なる八溝山塊に位置する常陸大宮市桧沢(旧美和村)、久慈郡大子町大沢の沢沿いでの調査を行ったが、姿をみることはできなかった。

なお、御前山で伐採されたようなミツバウツギの大木を見ることはなかった。

フタテンカメムシ *Laprius gastricus* は、海浜部に生息し、イネ科植物を寄主植物とする。南北に長い本県の海浜部は、大小を問わず砂浜を伴う。本種は、ひたちなか市の海浜部から記録されているが個体数は少なく、全般に「砂浜」の減少が危惧されるなかで、

その生息が危惧される状況が続いている。本種の採集方法として、砂浜部の「砂浜の目視調査」、「灯火採集」を行ってきたところだが、東海村の砂浜において、ツチカメムシ類の採集を目的にイネ科植物の根際の「砂」を採取していたところ、本種を得ることができた。「イネ科植物の根際に生息」などと記載する文献も承知していたが、砂中は想定していなかったため、一つの観察例として記録しておきたい。

#### 参考文献

- 宮ノ下明大・曲山幸生. 2014. 茨城県つくば市において冬季に建物で発見されたマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis*. ペストロジー, **29**(1): 23-24.



## カメムシ目 (アブラムシ類)

松本 嘉幸

### 2015年のアブラムシ類昆虫の動向

本報告は筆者が2015年に採集した茨城県産のアブラムシから、プレパラート標本にし、同定が完了した7種を報告する。リストでは、採集地、採集年月日、寄主植物および寄生していた部位の順に示した。胎生雌虫でない場合にはそのモルフも示し、一部は簡単な生態的な記述を加えた。その中でシデクチナガオオアブラムシとハクウンボクハナフシアブラムシは茨城県では初記録であり、特に前者のサワシバからの採集は日本での初記録である。シデクチナガオオアブラムシについては皇学館大学名誉教授宗林正人先生に同定をお願いした。また、ハクウンボクハナフシアブラムシについては産業技術総合研究所の杵掛磨也子博士から情報をいただいた。お礼申し上げる。

#### オオアブラムシ亜科 Lachninae

##### 1. シデクチナガオオアブラムシ

*Stomaphis carpini* Sorin,

27. IX. 2015, 北茨城市関本町, サワシバの樹皮;  
30. X. 2015, 同所, サワシバの樹皮および根際の樹皮。卵生雌虫および無翅雄虫。

本種は Sorin (1965) によれば、今までイヌシデのみで知られていた。今回、著者の調査で同属の植物であるサワシバでも確認することができた。このアブラムシは同じ株の樹皮にアリが蟻道を作り、その中で共生している。秋のコロニーでは卵生雌虫と雄虫の交尾が見られた。

#### アブラムシ亜科 Aphidinae

##### アブラムシ族 Aphidini

##### 2. ハゼアブラムシ

*Toxoptera odinae* (van der Goot)

8. V. 2015, 北茨城市花園, ヌルデの葉裏。

#### ヒゲナガアブラムシ族 Macrosiphini

##### 3. コモチシダコブアブラムシ

*Macromyzus woodwardiae* (Takahashi)

2. VII. 2015, 大子町, シダの1種の葉裏。

##### 4. シナノキトックリアブラムシ

*Rhopalosiphoninus tiliae* (Matsumura)

27. IX. 2015, 北茨城市小川, ノブキの果梗付近。

##### 5. ツツジアブラムシ

*Vesiculaphis caricis* (Fullaway)

8. V. 2015, 北茨城市亀谷池, ツツジの1種の葉裏。

##### 6. キブシアブラムシ

*Xenosiphonaphis japonica* Takahashi

8. V. 2015, 北茨城市小豆畑, キブシの葉裏。

#### ヒラタアブラムシ亜科 Hormaphidinae

##### 7. ハクウンボクハナフシアブラムシ

*Tuberaphis styraci* (Matsumura,)

2. VII. 2015, 大子町, ハクウンボクの小枝。

Aoki *et. al* (1989) によれば、本種は丸2年をかけてハクウンボクの小枝にサンゴ状の大きな虫こぶを作り、8月には虫こぶから雄虫と卵生雌虫を産む有翅虫(産性虫)が出現して、2次寄主植物に移住することなく、すみかを放置してしまうことで生活環を終わらせるアブラムシである。また、このアブラムシには次のような興味深い行動が見られる。柴尾ら(2011)によれば、本種の1齢幼虫は脱皮して2齢幼虫になると子虫を産む生殖個体と不妊の兵隊に分化する。その中で若い兵隊は虫こぶの上部で脱皮殻や甘露などのゴミを外に押し出す清掃行動を担当しているが加齢とともに虫こぶの下部に移動していき、最終的に老齢の兵隊が巣口で防衛行動を担当する。老齢の兵隊は下面に開いた小孔のまわりに集まって入口をガードしたり、外敵が来ると小孔から飛

び出してきて口針を使って攻撃する。兵隊は口針をさしたまま虫こぶから外敵と共に落下するという自己犠牲的なアブラムシであるという。

#### 引用・参考文献

Aoki S and U. Kurosu. 1989. Soldiers of *Astegopteryx styraci* (Hom. Aphid.) clean their gall. *Jpn. J. Ent.* 37: 407-416.

Blackman, R. L. and V. F. Eastop. 1994. Aphids on the worlds trees. 1004 pp. CAB International Wallingford.

Blackman, R.L. and V. F. Eastop. 2006. Aphids on the worlds herbaceous plants and shrubs, Vol.1: Host list and keys (viii + pp.1-1024), Vol. 2: The aphids. (viii

+ pp. 1025-1439), John Wiley & Sons, Chichester.

松本嘉幸 . 2008a, アブラムシ入門図鑑 . 239 pp., 全国農村教育協会 .

Miyazaki M. 1971. A revision of the tribe Macrosiphini of Japan. (Hom., Aphid.). *Insecta Matsumurana*. 34: 1-247.

柴尾晴信・沓掛磨也子・深津武馬. 2011. 年寄りに危険な仕事をさせるのがよい? -真社会性アブラムシの兵隊階級における労働分業-. *Rosteia*, (53): 53-55.

Sorin M. 1965. Three new species of the genus *Stomaphis* in Japan, with a redescription of *S. yanonis* Takahashi. (Aphididae, Hom.). *Bull. Univ. Osaka Pref., Ser. B*, 16: 81-88.

## アミメカゲロウ目

櫻井 浩

### 2015年のアミメカゲロウ目昆虫の動向

2015年のアミメカゲロウ目昆虫の調査において重要と思われるいくつかの記録を挙げ動向を報告する。

また、2014年について報告されなかった同目の記録についても、本報告に付け加えておく。採集者及び写真の撮影者は、特に明記がないものはすべて筆者である。

### ミズカゲロウ科 Sisyridae

#### 1. ミズカゲロウ

*Sisyra nikkoana* Navás, 1910

1♂ 1♀, 28. IX. 2014, 小美玉市山野, 写真記録 (図1); 19. VI. 2015, 小美玉市上合.



図1. ミズカゲロウ(2014年9月28日, 小美玉市山野, 櫻井浩撮影).



図2. オオマリコケムシ集合体 (2011年9月18日, 小美玉市上合・高揚池, 櫻井浩撮影).

記録は少ないが (櫻井, 2012), 茨城空港及び百里基地周辺では増加の傾向にある。ミズカゲロウの幼虫が寄生するオオマリコケムシ (榎本・櫻井, 2012) が溜池などに見られるようになり (図2), それに伴ってミズカゲロウも確認されるようになった。今後分布の広がりが予想される。

### ヒメカゲロウ科 Hemerobiidae

#### 1. キバネヒメカゲロウ

*Hemerobius harmandinus* Navás, 1909

4♀, 12. IX. 2015, 大子町・八溝山.

松の木より得られる種で、筑波山中腹の松から記録されていた (櫻井, 2012) が、八溝山中腹の松からも確認された。平野部の松林からは、まだ確認されていない。

#### 2. アシマダラヒメカゲロウ

*Micromus calidus* Hagen, 1859

1♂, 11. IV. 2015, 笠間市泉・愛宕山 (図3); 1♂, 12. IX. 2015, 大子町・八溝山.

記録は少ない (櫻井, 2010) が、特に生息環境が極限された種ではないため、少ないながら広く分布すると思われる。愛宕山での個体数は多い。



図3. アシマダラヒメカゲロウ (2015年4月11日, 笠間市泉・愛宕山, 櫻井浩撮影).

3. マルバネヒメカゲロウ

*Neuronema albstigma* (Matsumura, 1907)

1♂ 1♀, 5-17. VII. 2015, 大子町・八溝山, 勝間信之.

勝間信之氏が八溝山で行なったマレーズトラップによる調査で得られた. 本種は, 県北山地の湿地周辺で生息していることが想像できるが, 記録は少ない.

クサカゲロウ科 **Chrysopidae**

1. キントキクサカゲロウ

*Brinckochrysa kintoki* (Okamoto, 1919)

1♂, 24. V. 2015, 小美玉市高崎.

小美玉市の生息地において継続確認された. 春の記録は初めてである.

2. マツムラクサカゲロウ

*Semachrysa matsumurae* (Okamoto, 1914)

2015年9月に, 筑波山中腹での夜間ピーティングで確認された (櫻井, 2015). これが本県の初記録で茨城県産クサカゲロウ科は17種となった.

クシヒゲカゲロウ科 **Dilaridae**

1. クシヒゲカゲロウ

*Dilar japonicus* MacLachlan, 1883

1♂, 22. VII. 2015, 桜川市真壁町・筑波山; 1♂, 9. VIII. 2015, つくば市筑波・筑波山; 1♂, 9. VIII. 2015, つくば市筑波・筑波山, 紺野洋樹.

筑波山中腹の男の川及び, 8月8日から9日にかけて行なわれたライトトラップ調査で, 継続確認された (図4). 筑波山では今のところ安定した生息状況と思われる.



図4. クシヒゲカゲロウ目 (2015年7月21日, 筑波山男の川, 櫻井浩撮影).

ウスバカゲロウ科 **Myrmeleontidae**

1. カスリウスバカゲロウ

*Distoleon nigricans* (Okamoto, 1910)

成虫の記録が無かったが, 2012年に渡辺健氏によって武生林道で採集されており, 標本を確認した (櫻井, 2014).

2. オオウスバカゲロウ

*Heoclis japonica* (Hagen, in MacLachlan, 1875)

今まで東海村での記録だけであった本種は, 2014年に日立市及び銚田市などの海岸から成虫や幼虫が確認された (櫻井, 2014). また, ひたちなか市のひたち海浜公園内でも生息が確認されており, 一部生息環境の良好な場所が見られる. しかし, ほとんどの海岸線では生息環境が悪化して危惧的な状態にある.

引用文献

- 榎本友好・櫻井 浩. 2012. アミメカゲロウ目・シリヤゲムシ目. 茨城県自然博物館総合調査報告書-2011年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向-. pp. 29-32, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 櫻井 浩. 2010. 茨城県におけるアミメカゲロウ目の記録. るりぼし, (39): 43-48.
- 櫻井 浩. 2012. 茨城県におけるアミメカゲロウ目の記録追報. るりぼし, (41): 100-106.

2014年以降のアミメカゲロウ目昆虫に関する文献

- 櫻井 浩. 2014. 茨城県のウスバカゲロウ科の記録. るりぼし, (43): 66-67.
- 櫻井 浩. 2015. 茨城県産クサカゲロウ科17種となる. るりぼし, (44): 124.

## コウチュウ目

大桃 定洋

### 2015年コウチュウ目昆虫の動向

#### 1. コウチュウ目昆虫の調査状況

茨城県産コウチュウ目昆虫の調査は2014年度までに3,000種(112科3,025種)を越え、新たな目標4,000種の確認に向けて進めている。2015年度の昆虫類の発生状況は7月前半までは例年の様であったが、7月後半からの異常と思われる高温と10月の豪雨の影響が重なって野外で目撃できる昆虫の姿は非常に貧弱となった。その結果、筆者が新たに採集・同定した県初記録は僅かに9種であり、以前に採集した標本の精査(ハムシ科の多くは滝沢春雄氏の同定)によって18種を同定することができ、合計27種の茨城県初記録を確認しただけであった。ただし、ほかに多くの茨城県産初記録を含む重要な報文が公表され、文献記録として24科94種が増えた。従って、茨城県産コウチュウ目は112科3,119種となる。科別種類数一覧を別表(表1)に示した。

#### 2. 追加種

##### オサムシ科 *Dytiscidae* (354+1=355)

##### 1. キボシアトキリゴミムシ

*Anomatarus stigmula* (Chaudoir, 1852)

土浦市・宍塚大池(金子道夫・金子岳夫, 2015a); 桜川市(旧真壁町羽鳥)(金子道夫・金子節子, 2015)。

##### エンマムシ科 *Histeridae* (37+3=40)

##### 1. ミカドチビエンマムシ

*Bacanius mikado* (Lewis, 1892)

城里町(旧常北町)上郷・青山神社(大桃, 2015)。

##### 2. オオツブエンマムシ

*Anapleus hagai* Ohara, 1994

桜川市(旧岩瀬町)平沢(大桃, 2015)。

##### 3. ハコネエンマムシ

*Margarinotus sutus* (Lewis, 1884)

土浦市(旧新治村)沢辺(金子道夫・金子節子, 2015)。

##### コガネムシ科 *Scarabaeidae* (129+1=130)

##### 1. シナノエンマコガネ

*Onthophagus bivertex* Heyden, 1887

1♀, 20.VI.2015, 土浦市藤沢・ふるさとの森公園, 大桃定洋。

##### ムクゲキノコムシ科 *Ptiliidae* (3+1=4)

##### 1. ニホンムクゲキノコムシ

*Baeocrara japonica* (Matthews, 1885)

城里町(旧常北町)下古内(大桃, 2015)。

##### タマキノコムシ科 *Leiodidae* (25+9=34)

##### 1. ルイスチビシデムシ

*Catops angustitarsus lewisi* Jeannel, 1936

##### 2. ホソムネコチビシデムシ

*Mesocatops japonicus* (Jeannel, 1936)

##### 3. イシハラヒメチビシデムシ

*Nemadus ishiharai* Miyama, 1985

##### 4. ヒメチビシデムシ

*Nemadus japonus* Coiffait et Ueno, 1955

##### 5. ハギニセチビシデムシ

*Ptomophagus kuntzeni* Sokolowski, 1957

##### 6. ニセチビシデムシ

*Ptomophagus sibiricus* Jeannel, 1937

##### 7. キョウトコチビシデムシ

*Scidrepoides tsukamotoi* Nakane, 1956

##### 8. ムネグロコチビシデムシ

*Scidrepoides watosoni* (Spence, 1815)

以上の8種が太子町・八溝山におけるマレーゼトラップで採集された(20-29.V.2007, K. Ichige leg.)。

##### 9. クリバネチビシデムシ

*Micronemadus pusillimus* (Kraatz, 1877)

城里町（旧常北町）下古内（大桃，2015）.

ハネカクシ科 **Staphylinidae (281+32=313)**

1. コクロマルクビハネカクシ  
*Tachinus diminutus* Sharp, 1888  
3 exs., 22. X. 2007, 桜川市浮島・妙岐ノ鼻, 大桃定洋.
2. ダイミョウコガシラハネカクシ  
*Philonthus daimio* Sharp, 1889  
阿見町 (T. Ito, 2015).
3. アカアシユミセミゾハネカクシ  
*Thinodromus deceptor* (Sharp, 1889)
4. コゲチャコガシラハネカクシ  
*Philonthus liopterus* Sharp, 1889
5. チャイロキヌコガシラハネカクシ  
*Philonthus azabuensis* Dvorak, 1958
6. ヒラタホソコガシラハネカクシ  
*Gabrius subdepressus* Bernhauer, 1939
7. フタモンヒゲブトハネカクシ  
*Aleochara bipustulata* (Linnaeus, 1761)  
上記ハネカクシ科の3～7の5種は常総市大塚戸町・菅生沼での燈火採集で採集（金子道夫・金子岳夫，2015b）.
8. ツヤムネカワベハネカクシ  
*Bledius obtusus* Sharp, 1889
9. キバネニセユミセミゾハネカクシ  
*Carpelimus siamensis* (Fauvel, 1886)
10. ニッポンキノコツヤハネカクシ（ヤマトヒラタキノコハネカクシ）  
*Gyrophaena niponensis* Cameron, 1933  
上記8～10の3種は土浦市・宍塚大池での燈火採集で採集（金子道夫・金子岳夫，2015a）.
11. クロハナムグリヨツメハネカクシ（＝ルイスハナムグリハネカクシ）  
*Eusphalerum lewisi* (Cameron, 1930)
12. オオズニセコガシラハネカクシ（＝オオズコガシラハネカクシ）  
*Bisnius parvus* (Sharp, 1874)
13. チビカクコガシラハネカクシ  
*Philonthus discoideus* (Gravenhorst, 1802)  
5. チャイロキヌコガシラハネカクシ *Philonthus azabuensis* Dvorak, 1958

上記ハネカクシ科の11～13および5の4種はつくば市神郡で採集（金子道夫・金子節子，2015）.

14. ネアカトガリハネカクシ  
*Medon lewisius* Sharp, 1874
15. クロバネツツガタナガハネカクシ（＝クロバネナガハネカクシ）  
*Hypnogyra tenebrosa* (Bordoni, 1997)
16. フタイロコガシラハネカクシ  
*Philonthus kobensis* Sharp, 1874
17. コゲチャホソコガシラハネカクシ  
*Gabrinus unzenensis* Bernhauer, 1939
18. ズグロアカヒメハネカクシ  
*Atheta weisei* Bernhauer, 1907  
上記14～18の5種は桜川市（旧真壁町）酒寄で採集（金子道夫・金子節子，2015）.
19. アメイロセミゾハネカクシ  
*Myrmecocephalus concinnus* (Erichson, 1839)
20. アカバオオキバハネカクシ  
*Oxyporus parvus* Sharp, 1889
21. ハケゲアリノスハネカクシ  
*Lomechusa sinuata* (Sharp, 1888)  
10. ニッポンキノコツヤハネカクシ（ヤマトヒラタキノコハネカクシ） *Gyrophaena niponensis* Cameron, 1933  
上記ハネカクシ科の19～21および10の4種はつくば市・筑波山で採集（金子道夫・金子節子，2015）.
22. セミゾヨツメハネカクシ  
*Omalium japonicum* Sharp, 1874
23. キバネクビボソハネカクシ  
*Rugilus ceylanensis* (Kraatz, 1859)  
上記ハネカクシ科の22～23の2種は土浦市（旧新治村）沢辺で採集（金子道夫・金子節子，2015）.
24. キアシカワベハネカクシ  
*Bledius pallipes* Gravenhorst, 1806
25. ヒラタカクコガシラハネカクシ  
*Philonthus depressipennis* Sharp, 1889  
23. キバネクビボソハネカクシ *Rugilus ceylanensis* (Kraatz, 1859)  
上記ハネカクシ科の24～25および23の3種はつくば市小田で採集（金子道夫・金子節子，2015）.
26. カタアカホソハネカクシ  
*Atrecus pilicornis* Paykull, 1790
18. ズグロアカヒメハネカクシ *Atheta weisei* Bernhauer, 1907

上記ハネカクシ科の26と18の2種は桜川市（旧真壁町）羽鳥で採集（金子道夫・金子節子，2015）.

27. コクロマルクビハネカクシ

*Tachinus diminutus* Sharp, 1888

18. ズグロアカヒメハネカクシ *Atheta weisei* Bernhauer, 1907

上記ハネカクシ科の27と18の2種は土浦市（旧新治村）清滝・朝日峠で採集（金子道夫・金子節子，2015）.

28. アバタセスジハネカクシ

*Anotylus antennarius* (Bernhauer, 1907)

桜川市（旧真壁町）・筑波山北面山腹（金子道夫・金子節子，2015）.

29. チャバネキノコハネカクシ

*Bolitobius princeps* (Sharp, 1874)

土浦市（旧新治村）本郷（金子道夫・金子節子，2015）.

30. ウスアカヒゲブトハネカクシ

*Aleochara puberula* Klug, 1833

つくば市山口・不動峠（金子道夫・金子節子，2015）.

31. チャイロニセコガシラハネカクシ（=チャイロコガシラハネカクシ）

*Bisnius germanus* Sharp, 1874

桜川市（旧真壁町）山口（金子道夫・金子節子，2015）.

32. ガロアケシデオキノコムシ

*Scaphisoma galloisi* Achard, 1923

つくば市・筑波山（金子道夫・金子節子，2015）.

マルハナノミ科 **Scirtidae (19+1=20)**

1. ナガチビマルハナノミ

*Cyphon seryu* Nakane, 11963

1 ex., 18. V. 2015, 笠間市稲田, 大桃定洋.

タマムシ科 **Buprestidae (71+4=75)**

1. カラカネチビナカボソタマムシ

*Nalanda grilus ogatai* Ohmomo, 2002

水戸市飯富町（那珂川畔）（法師人，2015）.

2. オオウグイスナガタマムシ

*Agrilus asiaticus* Kerremans, 1898

水戸市千波町・逆川緑地公園（疋田，2015）.

3. オガタナガタマムシ

*Agrilus ogatai* Ohmomo, 2002

1 ♂, 24. VII. 2005, 北茨木市関本町・定波, 大桃定洋.

4. ヒメヒラタチビタマムシ

*Habroloma atronitidum* (Gebhardt, 1928)

1 ex., 23. VII. 1995, 常陸太田市（旧水府村）・武生林道, 大桃定洋.

ヒゲブトコメツキ科 **Throscidae (3+1=4)**

1. キボシヒゲブトコメツキ

*Drapetes torigaii* Nakane, 1985

土浦市・宍塚大池（金子道夫・金子岳夫，2015a）.

コメツキムシ科 **Elateridae (135+1=136)**

1. アカハネフトヒラタコメツキ

*Acteniceromorphus fulvipennis* (Lewis, 1894)

土浦市（旧新治村）清滝・朝日峠（金子道夫・金子節子，2015）.

ベニボタル科 **Lycidae (22+2=24)**

1. ミヤビベニボタル

*Dictyoptera sapporensis* (Kone, 1932) (= *D. ohbayashii* Nakane, 1969)

1 ex., 29. VI. 2015, 常陸大宮市舟生・中舟生, 大桃定洋.

2. フトベニボタル

*Lycostomus semielipticus* Reitter, 1910

土浦市（旧新治村）本郷（金子道夫・金子節子，2015）.

ジョウカイボン科 **Lycidae (38+1=39)**

1. クロヒゲナガジョウカイ

*Habronychus providus* (Kiesenwetter, 1874)

桜川市（旧真壁町）酒寄 / 土浦市清滝・朝日峠（金子道夫・金子節子，2015）.

ナガシンクイムシ科 **Bostrychidae (6+1=7)**

1. ガロアヒメナガシンクイ

*Xylopsocus galloisi* Lesne, 1937

石岡市（旧八郷町）辻（金子道夫・金子節子，2015）; 1 ex., 14. VI. 2015, 阿見町実穀, 大桃定洋.

カッコウムシ科 **Trogossitidae (20+1=21)**

## 1. ルリホソカッコウムシ

*Spinoza coerulea* Lewis, 1892

大子町・花瓶山（公文 暁, 2015）.

ケシキスイ科 **Nitidulidae (85+2=87)**

## 1. シリグロオオケシキスイ

*Oxycnemus lewisi* (Reitter, 1884)

北茨城市関本町（公文保幸, 2015）.

## 2. アオチビケシキスイ

*Meligethes praetermissus* Easton, 1957

つくば市・筑波山（金子道夫・金子節子, 2015）.

ホソヒラタムシ科 **Silvanidae (15+1=16)**

## 1. カクムネホソヒラタムシ

*Silvanus recticollis* Reitter, 1876

1 ex., 31. VIII. 2015, 牛久市下根町, K. Takahashi.

オオキノコムシ科 **Erotylidae (54+6=60)**

## 1. ツブコメツキモドキ

*Atomarops lewisi* Reitter, 1889

桜川市（旧真壁町）椎尾・薬王院コース, 鬼ヶ作コース; 桜川市（旧岩瀬町）平沢・富ヶ谷観音; 城里町（旧常北町）上郷・青山神社（大桃, 2015）.

## 2. アカモンチビオオキノコ

*Pseudotritoma consobrina* (Lewis, 1874)

北茨城市・和尚山（楨原ら, 2015）.

## 3. クロバチビオオキノコ

*Pseudamblyopus similis* (Lewis, 1887)

北茨城市・和尚山, 北茨城市・小川学術参考林（楨原ら, 2015）.

## 4. ハラアカチビオオキノコ

*Tritoma pallidiventralis* (Lewis, 1887)

北茨城市・和尚山（楨原ら, 2015）.

## 5. タカクラチビオオキノコ

*Tritoma takakurai* Nakane, 1979

北茨城市・和尚山, 北茨城市・小川学術参考林（楨原ら, 2015）.

## 6. ウスモンホソオオキノコ

*Dacne akitai* Narukawa, 1992

桜川市（旧真壁町羽鳥）（金子道夫・金子節子, 2015）.

テントウムシ科 **Coccinellidae (70+1=71)**

## 1. ナカネヒメテントウ

*Pseudoscymnus nakanei* (Araki, 1963)

土浦市・穴塚大池（金子道夫・金子岳夫, 2015a）.

ヒメマキムシ科 **Lathridiidae (16+2=18)**

## 1. クビレヒメマキムシ

*Cartodera consticta* (Gyllenhal, 1827)

東海村照沼, 北茨城市磯原, 北茨城市中郷（富山・中山, 2015）.

## 2. ユウレイヒメマキムシ

*Eufallia seminivea* (Motschulsky, 1866)

稲敷市, 北茨城市磯原, 土浦市北神立（富山・中山, 2015）.

コブゴミムシダマシ科 **Lathridiidae (17+1=18)**

## 1. クロオビナガセスジホソカタムシ

*Bitoma crenata* (Fabricius, 1775)

土浦市・穴塚大池（金子道夫・金子岳夫, 2015a）.

ゴミムシダマシ科 **Tenebrionidae (104+1=105)**

## 1. オビマダラケシゴミムシダマシ

*Microcrypticus scriptum* (Lewis, 1894)

つくば市神郡（金子道夫・金子節子, 2015）.

ハナノミダマシ科 **Scraptiidae (2+3=5)**

## 1. オオクロフナガタハナノミ

*Anaspis frontalis* (Linnaeus, 1758)

2 exs., 29. IV. 2015, 取手市小文間・利根川緑地公園, 大桃定洋.

## 2. コフナガタハナノミ

*Anaspis funagata* Kono, 1928

土浦市・穴塚大池（金子道夫・金子岳夫, 2015a）; つくば市・筑波山（金子道夫・金子節子, 2015）.

## 3. ホソフナガタハナノミ

*Pentaria elongata* (Kono, 1929)

桜川市（旧真壁町）・上曾峠（金子道夫・金子節子, 2015）.

ハナノミ科 **Mordellidae (28+2=30)**

## 1. クリイロヒゲハナノミ

*Higehananomia palpalis* Kono, 1935



つくば市小田（金子道夫・金子節子，2015）.

2. オカモトヒメハナノミ

*Falsomordellistena okamotoi* (Kono, 1932)

桜川市（旧真壁町）酒寄・筑波山，土浦市（旧新治村）本郷，つくば市小田，つくば市小和田（金子道夫・金子節子，2015）.

アリモドキ科 **Anthicidae (22+1=23)**

1. ウスモンホソアリモドキ

*Anthicus confucii* (Marseul, 1876)

土浦市・宍塚大池（金子道夫・金子岳夫，2015a）.

カミキリムシ科 **Cerambycidae (244+1=245)**

1. シロヘリトラカミキリ

*Anaglyptus colobotheoides* (Bates, 1884)

城里町（旧桂村）・御前山（渡辺・今井，2015）.

ハムシ科 **Chrysomelidae (232+11=243)**

1. タバコノミハムシ

*Epitrix hirtipennis* (Melsheimer, 1847)

桜川市高森，古河市下大野，行方市麻生（原田・滝沢，2012）.

2. キイロツブノミハムシ

*Aphthona foudrasi* Jacoby, 1885

1 ex., 19-20. IX. 2000, 行方市（旧北浦町）; 1 ex., 20. IX. 2011, 桜川市（旧大和村），滝沢春雄.

3. ホソルリトビハムシ

*Aphthonaltica angustata* (Baly, 1874)

1 ex., 3. V. 1991, 北茨城市磯原町; 1 ex., 25. V. 1986, 高萩市，滝沢春雄.

4. クガイソウアシナガトビハムシ

*Longitarsus longiseta* Weise, 1889

1 ex., 25. V. 1986, 高萩市，滝沢春雄.

5. コクロアシナガトビハムシ

*Longitarsus morrisonus* Chujo, 1937

1 ex., 20. IX. 2011, 桜川市（旧大和村），滝沢春雄.

6. ニホンハモグリトビハムシ

*Mantura japonica* Jacoby, 1885

3 exs., 27. VII. 2005, 稲敷市（旧桜川村），高橋敬一; 2 exs., 2. VI. 2008, 稲敷市（旧桜川村），大桃定洋.

7. シラハタキスジノミハムシ

*Phyllotreta shirahatai* Madar, 1959

1 ex., 17. IX. 1972, 取手市・利根川畔，K. Kurosa.

8. ヒロアシタマノミハムシ

*Sphaerodema tarsatum* Baly, 1874

1 ex., 16-17. VI. 2000, 鉾田市（旧鉾田町）; 1 ex.,

29. VIII. 2005, つくば市・筑波山，滝沢春雄.

9. チビカミナリハムシ

*Zipanginia picipes* (Baly, 1874)

桜川市（旧真壁町）酒寄（金子道夫・金子節子，2015）.

10. セダカカクムネトビハムシ

*Asiolestia gruevi* (Kimoto, 1983)

つくば市神郡（金子道夫・金子節子，2015）.

11. ヒメジンガサハムシ

*Cassida fiscorufa* Motschulsky, 1866

つくば市臼井・白滝神社; 土浦市（旧新治村）清滝・朝日峠（金子道夫・金子節子，2015）.

ゾウムシ科 **Curculionidae (265+12=277)**

1. アムールチビコフキゾウムシ

*Sitona amurensis* Faust, 1882

1 ex., 29. IV. 2015, 取手市小文間・利根川緑地公園，大桃定洋.

2. ケチビコフキゾウムシ *Sitona hispidulus* (Fabricius, 1776)

1 ex., 25. VI. 2015, 取手市小文間・利根川緑地公園，大桃定洋.

3. クロツブゾウムシ

*Sphinxus koikei* (Voss et Chujo, 1960)

1 ex., 7. V. 2015, 大子町上小川・頃藤，大桃定洋.

4. ハリゲスグリゾウムシ

*Pseudocneorhinus adamsi* Roelofs, 1879

土浦市（旧新治村）清滝・朝日峠，土浦市本郷（金子道夫・金子節子，2015）; 3 exs., 20. VI. 2015, 土浦市藤沢・ふるさとの森公園，大桃定洋.

5. ツンプトクチブトゾウムシ

*Myllocerus nipponensis* Zumpt, 1938

つくば市・筑波山（金子道夫・金子節子，2015）.

6. チビメナガゾウムシ

*Calomycterus setarius* Roelofs, 1873

つくば市小田（金子道夫・金子節子，2015）.

7. ケナガスグリゾウムシ

*Pseudocneorhinus setosus* Roelofs, 1879

表 1. 茨城県で記録されたコウチュウ目昆虫の科別種類数 (112 科 3,119 種)

科名	種数	科名	種数	科名	種数
1. ナガヒラタムシ科 Cupedidae	1	39. タマムシ科 Buprestidae	75	77. ヒメマキムシ科 Lathridiidae	18
2. セスジムシ科 Rhysodidae	2	40. コメツキムシ科 Elateridae	136	78. ツツキノコムシ科 Cidae	14
3. ヒゲブトオサムシ科 Paussidae	1	41. ヒゲブトコメツキ科 Throscidae	4	79. コキノコムシ科 Mycetophagidae	14
4. カワラゴミムシ科 Omophronidae	1	42. コメツキダマシ科 Eucnemidae	24	80. ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae	105
5. ハンミョウ科 Cicindelidae	9	43. ペンボタル科 Lycidae	24	81. コヒゲホソカタムシ科 Bothriideridae	1
6. オサムシ科 Carabidae	355	44. ホタル科 Lampyridae	10	82. コゴミムシダマシ科 Zopheridae	18
7. ホソクビゴミムシ科 Brachinidae	5	45. ホタルモドキ科 Omethidae	2	83. キノコムシダマシ科 Tetratomidae	7
8. ガシラミズムシ科 Haliplidae	4	46. ジョウカイボン科 Cantharidae	39	84. アバヒラタムシ科 Prostomidae	1
9. コツブゲンゴロウ科 Noteridae	2	47. マキムシモドキ科 Derodontidae	2	85. チビキカワムシ科 Salpingidae	13
10. ゲンゴロウ科 Dytiscidae	41	48. カツオブシムシ科 Demestidae	17	86. ホソキカワムシ科 Mycteridae	1
11. ミズスマシ科 Gyrimidae	6	49. ヒメトゲムシ科 Nosodendridae	1	87. クビナガムシ科 Cephaloidea	3
12. ダルマガムシ科 Hydraenidae	8	50. ナガシクイムシ科 Bostrychidae	7	88. アカハネムシ科 Pyrochroidae	10
13. セスジガムシ科 Helophoridae	1	51. シバンムシ科 Anobiidae	22	89. ヒラタナガクチキムシ科 Synchronidae	1
14. ガムシ科 Hydrophilidae	37	52. コクススト科 Trogossitidae	8	90. ナガクチキムシ科 Melandryidae	45
15. マルドロムシ科 Geonissidae	1	53. カツコウムシ科 Cleridae	21	91. オオハナノミ科 Rhipiphoridae	4
16. エンマムシモドキ科 Syntelidae	1	54. ジョウウカイモドキ科 Melyridae	9	92. ハナノミ科 Mordellidae	30
17. エンマムシ科 Histeridae	40	55. ツツシクイ科 Lymexylonidae	2	93. ハナノミダマシ科 Scaptidae	5
18. ヒメクビキノコムシ科 Ptiliidae	4	56. ヒメキノコムシ科 Sphindidae	3	94. カミキリモドキ科 Oedemeridae	21
19. タマキノコムシ科 Leiodidae	34	57. ネスイムシ科 Rhizophagidae	10	95. ツチハンミンヨウ科 Meloidae	6
20. ツヤシデムシ科 Agyrtidae	1	58. ヒゲボンケシキスイ科 Kateridae	3	96. アリモドキ科 Anthicidae	23
21. シデムシ科 Silphidae	14	59. ケシキスイ科 Nitidulidae	87	97. ニセクビボンムシ科 Aderidae	8
22. ハネカクシ科 Staphylinidae	313	60. ツヒラタムシ科 Passandridae	1	98. ホソカミキリムシ科 CDistenidae	1
23. クワガタムシ科 Lucanidae	14	61. ヒラタムシ科 Cucujidae	4	99. カミキリムシ科 Cerambycidae	245
24. コブスジコガネ科 Trogidae	7	62. チビヒラタムシ科 Laemophloeidae	14	100. ハムシ科 Chrysomelidae	243
25. コガネムシ科 Scarabaeidae	130	63. ホソヒラタムシ科 Silvanidae	16	101. マメゾウムシ科 Bruchidae	11
26. マルハナノミダマシ科 Eucinetidae	1	64. キスイムシ科 Cryptophagidae	18	102. ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae	49
27. マルハナノミ科 Scirtidae	20	65. オオキスイムシ科 Helotidae	2	103. オトシブミ科 Attelabidae	21
28. ナガハナノミ科 Ptilodactylidae	7	66. ムクゲキスイムシ科 Biphylidae	8	104. ミツギリゾウムシ科 Brentidae	3
29. ナガハナノミダマシ科 Armatopidae	2	67. キスイモドキ科 Byturidae	2	105. チョウキリゾウムシ科 Rhynchitidae	27
30. マルトゲムシ科 Byrrhidae	4	68. オオキノコムシ科 Erotyidae	60	106. チビゾウムシ科 Nanophyidae	6
31. ダエンマルトゲムシ科 Chelonariidae	1	69. ミジンムシダマシ科 Discolomidae	1	107. イネゾウムシ科 NEnrhinidae	5
32. ヒラタドロムシ科 Pusephenidae	8	70. ミジンムシモドキ科 Phaenoccephalidae	1	108. ホソクチゾウムシ科 Aptomidae	12
33. ナガドロムシ科 Heteroceridae	2	71. カクホソカタムシ科 Cerylonidae	5	109. ゾウムシ科 Curculionidae	277
34. チビドロムシ科 Limnichidae	2	72. ミジンムシ科 Corylophidae	8	110. オサゾウムシ科 Rhynchophoridae	8
35. ドロムシ科 Dryopidae	1	73. テントウムシダマシ科 Endomychidae	18	111. ナガクイムシ科 Platypodidae	2
36. ヒメドロムシ科 Elmidae	18	74. マルテントウムシ科 Mychothenidae	3	112. キクイムシ科 Scolytidae	28
37. クシヒゲムシ科 Rhipiceridae	1	75. テントウムシ科 Coccinellidae	71		
38. ホソクシヒゲムシ科 Callirhipidae	1	76. ヒメハナムシ科 Phalacridae	9		
		合計	112 科		3,119 種

- つくば市・筑波山（金子道夫・金子節子，2015）.
8. ナシハナゾウムシ  
*Anthonomus pomorum* (Linnaeus, 1758)  
土浦市（旧新治村）清滝・朝日峠（金子道夫・金子節子，2015）.
9. イヌビワシギゾウムシ  
*Curculio funebris* (Roelofs, 1875)  
桜川市（旧真壁町）酒寄（金子道夫・金子節子，2015）.
10. ケマンサルゾウムシ  
*Sirocalodes umbrinus* (Hustache, 1916)  
桜川市（旧真壁町）酒寄（金子道夫・金子節子，2015）.
11. サルゾウムシ  
*Cardipennis rubripes* (Hustache, 1916)  
土浦市（旧新治村）小野・清滝寺（金子道夫・金子節子，2015）.

キクイムシ科 Scolytidae (26+2=28)

1. フィリピンキクイムシ  
*Cyrtogenius brevior* (Eggers, 1927)  
つくば市・筑波山（金子道夫・金子節子，2015）.
2. コーヒーキクイムシ  
*Taphrorychus coffeae* (Eggers, 1923)  
1 ex., 18. V. 2015, 笠間市稲田，大桃定洋.

引用文献

- 原田晴康・滝沢春雄. 2012. 日本における侵入害虫タバコノミハムシの発生. 日本応用動物昆虫学会誌, 56(3): 117-120.
- 疋田 直之. 2015. 茨城県初記録となるにおけるオオウグイスナガタムシの採集例. るりぼし, (44): 121.
- 法師人馨. 2015. 茨城県におけるカラカネチビナカボソタムシの記録. るりぼし, (44): 118.
- 金子道夫・金子節子. 2015. 筑波山山域での甲虫の記録. るりぼし, (44): 2-57.
- 金子道夫・金子岳夫. 2015a. 土浦市穴塚大池での燈火採集による甲虫の記録. るりぼし, (44): 58-68.
- 金子道夫・金子岳夫. 2015b. 菅生沼での燈火採集による甲虫の記録. るりぼし, (44): 69-76.
- 公文 暁. 2015. 花瓶山周辺で見つかった甲虫類の記録, その6. るりぼし, (44): 81-87.
- 公文保幸. 2015. 茨城県北茨城市におけるシリグロオオケシキスイなどの採集例. 月刊むし, (536): 44-45.
- 榎原 寛・生川展行・後藤秀章・岡部貴美子. 2015. 茨城県未記録のオオキノコムシ科. SAYABANE, n. s., (19): 56.
- 大桃定洋. 2015. ツルグレン抽出法によって茨城県で採集された微小甲虫. 茨城県自然博物館研究報告, (18): 57-63
- T. Ito. 2015. Notes on the species of Staphylinidae (Coleoptera) from Japan. XVIII. The Description of a new species of the genus *Philonthus* from the Ryukyus, with a little knowledge of its relatives. *Elytra, New Series*, 5(1): 43-46.
- 富山春香・中山恒友. 2015. (株) 帝装化成コレクション中のヒメマキムシ科 28 種について. インセクト, 66(2): 120-127.
- 渡辺 健・今井初太郎. 2015. 城里町でシロヘリトラカミキリを採集. るりぼし, (44): 116.

2015年のコウチュウ目昆虫に関する文献

1. 金子道夫・金子節子. 2015. 筑波山山域での甲虫の記録. るりぼし, (44): 2-57.  
筑波山山域で2001年からはじめた甲虫類の採集調査で2015年9月までに同定・確認できた71科1,004種が報告された. この中の58種（その中の5種は既に報告されている）は茨城県から初記録であり, また422種は筑波山山域から初記録とされた. 特に, 調査が手薄であったハネカクシ科は27種の県初記録を含む109種が報告され, 注目される報文である.
2. 金子道夫・金子岳夫. 2015a. 土浦市穴塚大池での燈火採集による甲虫の記録. るりぼし, (44): 58-68.  
土浦市・穴塚大池で2004年7～9月に5回の灯火採集を行い, 採集・同定した甲虫類38科159種が報告された. その中には県初記録となる9種が含

まれている。

3. 金子道夫・金子岳夫. 2015b. 菅生沼での燈火採集による甲虫の記録. りりぼし, (44): 69-76.

常総市大塚戸町で2004年と2005年に合計5回の灯火採集を行い, 採集・同定した甲虫類23科111種が報告された. その中には県初記録となる5種が含まれている.

4. 楨原 寛・生川展行・後藤秀章・岡部貴美子. 2015. 茨城県未記録のオオキノコムシ科. SAYABANE, n. s., (19): 56.

北茨城市関本町・定波地区に標本見本林として保護されている小川自然林と和尚山で採集されたオオキノコムシ科の甲虫類9種が報告された. この中には4種の県初記録種が含まれている(6種を茨城県初記録としているが, 2種は既に報告されている).

5. 大桃定洋. 2015. ツルグレン抽出法によって茨城県で採集された微小甲虫. 茨城県自然博物館研究報告, (18): 57-63.

ツルグレン抽出法によって採集された土壌性微小甲虫類25科65種が報告された. この中には5種の県初記録種が含まれている.

6. 富山春香・中山恒友. 2015. (株) 帝装化成コレクション中のヒメマキムシ科28種について. インセクト, 66(2): 120-127.

茨城県産種として9種の記録が含まれ, その中の2種は県初記録である.

7. 公文 暁. 2015. 花瓶山周辺で見つかった甲虫類の記録, その6. りりぼし, (44): 81-87.

花瓶山周辺の甲虫類の記録は既に5回にわたって報告され, 今回は2014年12月以降に確認された23科47種が報告された. その中に県初記録の1種が含まれる.

8. 公文保幸. 2015. 茨城県北茨城市におけるシリグロオオケシキスイなどの採集例. 月刊むし, (536): 44-45.

県初記録としてシリグロオオケシキスイが報告さ

れ, 八溝山から唯一記録されたアオアシナガハナムグリも記録された.

9. 法師人馨. 2015. 茨城県におけるカラカネチビナカボソタマムシの記録. りりぼし, (44): 118.

[茨城県初記録]

10. 疋田直之. 2015. 茨城県初記録となるにおけるオオウグイスナガタマムシの採集例. りりぼし, (44): 121.

[茨城県初記録]

11. 渡辺 健・今井初太郎. 2015. 城里町でシロヘリトラカミキリを採集. りりぼし, (44): 116.

[茨城県初記録]

12. ほかに茨城県産コウチュウ目に関する報文12編が公表された.

- 1) 公文 暁・公文保幸. 2015. 鹿行地域で見つかった歩行虫の記録(補遺). りりぼし, (44): 77-80.

[オサムシ科16種の記録]

- 2) 大桃定洋. 2015. 茨城県におけるハイロヒラタチビタマムシの不思議な分布. りりぼし, (44): 88-89.

[ハイロヒラタチビタマムシの県内における全記録]

- 3) 蔵田駿一. 2015. 虫と偶感(1). りりぼし, (44): 102-106.

[常総地域の各種昆虫類の生息状況の変化などが回想され, その中にワタラセハンミョウモドキの再確認に挑戦したが失敗であったことが記されている]

- 4) 井上尚武. 2015. 茨城県からのホシベニカミキリとアカアシオオアオカミキリの採集記録. りりぼし, (44): 116-117.

- 5) 井上尚武. 2015. 常陸太田市の平野部でオオヨスジハナカミキリを採集. りりぼし, (44): 117.

- 6) 法師人馨. 2015. 水戸市におけるオニグルミノキモンカミキリの記録. りりぼし, (44): 117-118.

- 7) 法師人馨. 2015. ラミーカミキリの茨城県における北限の記録. りりぼし, (44): 118.

- 8) 渡辺 健・染谷 保. 2015. 常陸太田市でアイヌコブスジコガネとヨツバコガネを採集. りりぼし,

- (44): 119.
- 9) 小菅次男 . 2015. アオマダラタマムシの記録 . るりぼし , (44): 119-120.
- 10) 小菅次男 . 2015. オオルリハムシの記録 . るりぼし , (44): 120.
- 11) 疋田直之 . 2015. マサキナガタマムシをオニグルミから採集 . るりぼし , (44): 121.
- 12) 疋田直之・矢板健太 . 2015. クビアカトラカミキリの新産地 . るりぼし , (44): 121-122.

## コウチュウ目

足田 直之

### 2015年のコウチュウ目昆虫の動向

#### 1. キイロホソゴミムシについて

笠原 (1993) によるとキイロホソゴミムシ *Drypta fulveola* は、現在の東京都墨田区本所の隅田川左岸から採集された標本により記載された。その後、長い間採集されず幻のゴミムシと呼ばれていた。その後、千葉県市川市行徳の江戸川河口から再発見されたが、開発により姿を消し再び幻の昆虫となった。近年になって千葉県木更津市小櫃川河口において採集された。東京湾内では他にも、雛倉・荻部 (2000) により多摩川河口の神奈川県川崎市側から、武藤 (2007) により同河川の東京都大田区側から記録された。また、千葉県市川市の江戸川放水路でも再発見されている (中島 2013)。一方、東京湾以外からは、岩瀬 (1989) による千葉県長生郡一宮町の灯火に飛来した1個体の記録をはじめ、千葉県夷隅川河口 (山崎・藤平, 2005) や一宮川河口 (谷野, 2005) 等の採集報告が知られている。本種は河川河口に広がる、汽水で干満の影響を受ける良好な環境のヨシ原に生息しているが、このような環境は関東地方には少なく、その為に環境省レッドリストの絶滅危惧IB類 (EN) に指定されている。

複数のゴミムシ研究者より、利根川河口域に建設された「利根かもめ大橋」のアセスメント調査で本種が茨城県より採集されたこと、またその後も採集されているが採集報告がなされていないとの情報提供を受けた。今回、廣瀬誠氏のご厚意により利根川下流河川事務所河川環境管理財団 (2005) の資料を見る機会を得た。この資料では本種を「試験施工対象種」に指定し、河道計画による影響と復元・再生目標を立てている。さらに、国土交通省河川局 (2005) には、取手市から河口に至る区間における主な確認種として本種の写真と分布・生息場所の簡単な説明が掲載されている。正式な採集記録がないため、本種は茨城県の甲虫リストにも掲載されず、

また貴重な種であるにも関わらず茨城県のレッドリストに選ばれることもなかった。

今年度の調査で茨城県の利根川河口域に於いて、本種を採集したので報告する。

10 exs., 5. IV. 2015, 神栖市谷田部。

採集個体は、利根かもめ大橋の直下から上流約100 m程に広がるヨシ原中に点在する倒木の下より得た。個体密度は千葉県小櫃川河口等と比べても低くなく、また利根川河口域の両岸には本種の生息に適した広大なヨシ原が続くことから、今後他産地の発見にも力を入れて調査したい。

今回、貴重な資料を見せて頂いた廣瀬誠氏に厚くお礼申し上げる。

#### 2. テツイロヒメカミキリの茨城県内北限記録

テツイロヒメカミキリ *Ceresium sinicum* は、高桑 (1991) により取手市新取手から茨城県初記録として報告された。その後に発表された、市川ら (2008) や大桃・高野 (2011, 2014) により、新たに稲敷市、つくば市、牛久市、龍ヶ崎市、稲敷郡阿見町から記録されている。また、大桃定洋博士からの私信によれば、最近土浦市周辺で普通に見られるカミキリとなっているそうである。

筆者は本種を水戸市で採集しているもので、以下に北限記録として報告する。

2 exs., 29. VI. 2015, 茨城県水戸市笠原町逆川緑地。

ケヤキ植林地の林縁にある高さ6 m程のアカメガシワの花を午後1時頃に掬って採集した。後日、数回にわたり同じ花を掬ったが、追加個体を採集することはできなかった。

取手市新取手における県内初記録から、20年以上かけて水戸市まで北上したこととなる。本種は灯火に飛来する習性も強く、今後、本採集地以北の太平洋岸地域及び水戸市周辺での分布の拡大に注意を要する。

県南地域における本種の分布状況をご教示頂い

た、大桃定洋博士に厚くお礼申し上げる。

### 3. カエデノヘリグロハナカミキリの新産地

カエデノヘリグロカミキリ *Eustrangalis distenioides* Bates, 1884 の本県に於ける記録は、市川ほか (2008) によれば極めて局所的であり、北茨城市関本町以外からはない。また本種は良好な夏緑樹林に生息し、成虫がカエデ類等の花に集まることで知られている。特に近年、早朝や夕刻にセンノキ(ハリギリ)の樹皮が剥げた立ち枯れに雌雄共に集まることが知られるようになってから、採集記録が増加したカミキリムシである。

筆者は此まで記録がなかった八溝山において本種を採集しているので、県内新産地として報告する。

1♀, 17. V. 2015, 茨城県久慈郡大子町上野宮八溝山。  
1♂, 30. V. 2015, 同上。

雌は八溝山山頂付近の尾根にある樹皮が剥げたセンノキの立ち枯れに産卵していたものを、雄はその周辺の地上1m程の高さを飛翔していたものを採集した。5月31日の早朝にもこの立ち枯れを観察したが、追加記録は得られなかった。

### 4. アオマダラタマムシの茨城県内北限記録

アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabilis* は近年、夏緑樹林においてモチ科のアオハダを主要な寄主植物として利用することが判明してから、県内における採集例が増えたタマムシである。また、これまで本種の茨城県内における北限産地は常陸大宮市下伊勢畑(佐々木, 2012)であり、那珂川以北の記録はなかった。

筆者は本種を常陸太田市で採集しているので、以下に本種の北限記録として報告する。

1 ex., 12. VI. 2015, 茨城県常陸太田市上高倉。

採集地は尾根沿いの林道脇であり、林道下から伸びた約6m程のアオハダの枝に静止していた個体を

採集した。周囲のアオハダを注意して観察したが、追加個体を得ることはできなかった。

### 引用文献および参考文献

- 市川和雄・公文 暁・公文保幸. 2008. 茨城県のカミキリⅡ, るりぼし, (37): 67.
- 岩瀬和夫. 1989. 千葉県外房のキイロホソゴミムシ, 月刊むし, (226): 2.
- 大桃定洋・高野 勉. 2011. 茨城県産甲虫リスト補遺 (3), るりぼし, (40): 16.
- 大桃定洋・高野 勉. 2014. 茨城県産甲虫リスト補遺 (4), るりぼし, (43): 22.
- 笠原須磨生. 1993. キイロホソゴミムシ. 滅びゆく日本の昆虫 50種, 81-83. 築地書館, 東京.
- 国土交通省河川局. 2005. 利根川水系の流域及び河川の概要(案), 8.
- 佐々木泰弘. 2012. 常陸大宮市でアオマダラタマムシを採集, るりぼし, (41): 118.
- 高桑正敏. 1991. 茨城県からのテツイロヒメカミキリの記録, 月刊むし, (249): 37.
- 利根川下流河川事務所河川環境管理財団. 2005. 利根川下流における代償地試験施工について, 1-20.
- 中島一豪. 2013. 千葉県市川市江戸川放水路でキイロホソゴミムシを採集, 月刊むし, (504): 45.
- 雛倉正人・苅部治紀. 2000. 川崎市多摩川河口部の甲虫類について, 川崎市青少年科学館紀要, (11): 38-41.
- 武藤将道. 2007. 東京都大田区におけるキイロホソゴミムシの記録, 月刊むし, (431): 43-44.
- 谷野泰義. 2005. キイロホソゴミムシの千葉県外房の記録, 月刊むし, (412): 48-49.
- 山崎秀雄・藤平 暁. 2005. 千葉県夷隅川河口でキイロホソゴミムシを採集, 月刊むし, (408): 44-45.

## ハチ目 久松 正樹

### 2015年のハチ目昆虫の動向

2015年は、5月の月平均気温がかなり高く、6、7月と高い気温が続いたが、8、9月は平年並みとなった。2015年茨城県でのハチ類の発生については、特に目立った特徴は認められなかった。

久松はミュージアムパーク茨城県自然博物館の野外施設で、有剣類ハチ類の11科72種を採集した。これまでの記録（久松、2003、2004、2005、2006、2007）と併せて11科85種が記録されたことになる。この中で、2015年5月1日に採集したチビヒメハナバチ *Panurginus (Panurginus) crawfordi* の1♂は、県内初記録種となる（図1）。

近年、観察記録が続いている城里町のウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* は、本年も城里町春園の綿引佳憲氏が、2015年11月22日にクリの材より成虫17♀32♂を採集した。ウマノオバチは8月時点で蛹であることが分かっており（久松、2016）、羽化は9～10月頃であることが推察される。また、横島久夫氏は、ウマノオバチの成虫1♀を、2015年11月21日に坂東市小山で採集した。この時期、気候条件によっては屋外でウマノオバチの成虫が観察できるといえる。

2015年は、国立科学博物館に収蔵されている谷伴夫氏が1930年代に採集したハチ類標本を調査する機会を得た。詳細は別報にゆずるが、11科25種36個体を確認した。この中でナシモンキマダラハナバチ *Nomada pyrifera*（図2: 1♀, 19.V.1935, 茨城県東茨城郡吉田古宿）は、これまで県内で生息の確認がされていなかった種である。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、第64回企画展「暮らしの中の動物－嫌われものの本当のすがた－」（2015年10月10日～2016年1月31日）を開催し、その中で昆虫も扱われた。紹介された種類は、ハチ、カ、ゴキブリ、シロアリ、カメムシが紹介され、忌み嫌われていた昆虫にスポッ

トが当てられた展示となった（図3）。



図1. ミュージアムパーク茨城県自然博物館で採集されたチビヒメハナバチ。



図2. 国立科学博物館に収蔵されているナシモンキマダラハナバチ。



図3. ミュージアムパーク茨城県自然博物館の企画展でハチの巣を解体して来館者に見せている様子。



### 茨城県のハチ目昆虫の報告について

2015年の茨城県におけるハチ類に関しては、小菅(2015)が、“るりぼし”に報告した「桜川市でウマノオバチを目撃」で、ウマノオバチの2009年の目撃情報を記録した。

また、久松(2015)は、“茨城県自然博物館研究報告”に「茨城県北茨城市小川地域における野生ハナバチ群集の種構成」を報告した。その中で2008年3～11月にかけて茨城県北茨城市関本小川地域で調査した野生ハナバチ類の種構成を述べ、5科81種2,268個体のハナバチを記録した。

### 引用文献

小菅次男. 2015. 桜川市でウマノオバチを目撃. るりぼし, (44): 123.

久松正樹. 2003. ミュージアムパーク茨城県自然博物館の敷地内およびその周辺で採集された野生ハナバチ (Hymenoptera, Apoidea). 茨城県自然博物館

研究報告, (6): 55-62.

久松正樹. 2004. ムナカタハキリバチとスミヅメハキリバチの記録. るりぼし, (31): 77.

久松正樹. 2005. 茨城県における外来昆虫, セイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* (Hymenoptera: Apidae). 茨城県自然博物館研究報告, (8): 37-38.

久松正樹. 2006. 茨城県におけるドロバチモドキ科ハチ類(ハチ目)2種の新しい生息地. 茨城県自然博物館研究報告, (9): 27-28.

久松正樹. 2007. 茨城県坂東市におけるチャイロスズメバチ(ハチ目:スズメバチ科)の採集記録. 茨城県自然博物館研究報告, (10): 11-12.

久松正樹. 2015. 茨城県北茨城市小川地域における野生ハナバチ群集の種構成. 茨城県自然博物館研究報告, (18): 19-32.

久松正樹. 2016. ハチ目. 茨城県自然博物館総合調査報告書 2014年茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向. pp. 43-44. ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

## 双翅目 (ハエ目 : 主にハナアブ科)

市毛 勝義

### 2015年のハエ目昆虫の動向

#### 1. 採集したハナアブ類について

例年のことであるが、春先は水戸市・森林公園及び周辺のユキヤナギ及びカエデ類の花に訪花したものを中心に、その後は大子町・八溝山の山頂付近(特に銀性水付近の登山道沿いのブナの倒木)に飛来する朽木性ハナアブを調査した。同定が終わった標本の一部を報告する。なお、すべて筆者の採集品なので採集者名は省略する。

種の配列や学名などは、基本的に日本昆虫目録第8巻に従った。

#### ヒラタアブ亜科 Syrphinae

##### ヒラタアブ族 Syrphini

#### 1. ツマキオオヒラタアブ

*Dideoides coquilletti* (van der Goot, 1964)

1♀, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山; 1♂, 6. V. 2015, 北茨城市・花園溪谷, カエデ類訪花。

#### 2. ツヤムネオビヒラタアブ

*Epistrophe nitidicollis* (Meigen, 1822)

2♂, 30. IV. 2015, 大子町・八溝山山頂付近。

#### 3. ムツモンオビヒラタアブ

*Epistrophe* sp. 2

1♂, 31. III. 2015, 水戸市・森林公園, ユキヤナギ訪花。

早春に出る未記載種で、茨城県以外ではほとんど採集されていない。数年ぶりに採集した。

#### 4. オオヨコモンヒラタアブ

*Leucozona (Ischyrosyrphus) glaucius* (Linnaeus, 1758)

1♀, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山。

ここ数年、毎年確認している。

#### 5. ヒメホソヒラタアブ

*Melangyna (Meligramma) cingulata* (Egger, 1860)

1♂, 30. IV. 2015, 大子町上野宮蛇穴, カエデ類訪花。

#### 6. オビホソヒラタアブ

*Meliscaeva cinctella* (Zetterstedt, 1843)

2♂, 12. IV. 2015, 水戸市・森林公園。

#### 7. カオスジヒメヒラタアブ

*Sphaerophoria reginae* Claussen et Mutin, 2007

6♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 銀性水付近。

登山道沿いに倒れたブナの大木に集まるハナアブを観察していた際に、本種が飛んでいるのを見つけ、数時間で6頭の雄を採集することが出来た。倒木更新により出来た林冠ギャップが移動経路上に位置し、飛翔個体が見つけ易くなっていたものと思われる。

#### コシボソハナアブ族 Bacchini

#### 8. ムモンコシボソハナアブ

*Baccha laphrieformis* Virolovitsh, 1976

2♂ 1♀, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山。

山地性で、時折他のコシボソハナアブに混じって採れる。茨城県以外ではほとんど報告されていない。

#### ツヤヒラタアブ族 Melanostomatini

#### 9. マキゲヒラアシヒラタアブ

*Platycheirus (Pachysphyria) ambiguus* (Fallén, 1817)

1♀, 31. III. 2015, 水戸市・森林公園。ユキヤナギ訪花。

早春に出る種類で、県内では水戸市以外では採れていない。

#### ハナアブ亜科 Eristalinae

##### クロハナアブ族 Cheilosini

#### 10. キバネクロハナアブ

*Cheilosia basalis* Shiraki, 1968

1♀, 2. V. 2015, 常陸大宮市・御前山大天狗林道, ウツギ訪花。

#### 11. エダシゲクロハナアブ

*Cheilosia edashigei* Shiraki, 1968

1♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園, カエデ訪花;  
1♀, 2. V. 2015, 常陸大宮市・御前山大天狗林道, ウツギ訪花; 1♂, 30. IV. 2015, 大子町上野宮蛇穴, カエデ類訪花.

12. イイダヒゲクロハナアブ

*Cheilisia iidai* (Shiraki, 1950)

2♂ 1♀, 6. V. 2015, 北茨城市・花園溪谷, ウツギ訪花.

13. コマバクロハナアブ

*Cheilisia komabaensis* Shiraki, 1968

2♂, 31. III. 2015, 水戸市・森林公園, ユキヤナギ訪花; 1♀, 6. IV. 2015, 水戸市・森林公園, ユキヤナギ訪花.

14. ヒロカオクロハナアブ

*Cheilisia latifaciella* (Shiraki, 1930)

3♂, 30. IV. 2015, 大子町・八溝山山頂付近.

15. ニセジョウザンケイクロハナアブ

*Cheilisia nuda* (Shiraki, 1930) .

1♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園; 1♂, 30. IV. 2015, 大子町上野宮蛇穴, カエデ類訪花; 1♀, 6. V. 2015, 北茨城市・大北溪谷, ウツギ訪花; 2♀, 6. V. 2015, 北茨城市・花園溪谷, ウツギ訪花.

タマヒラタアブ族 **Chrysogasterini**

16. シコクモモブトホソハナアブ

*Myolepta shikokuana* Shiraki, 1968

2♂, 30. IV. 2015, 大子町上野宮蛇穴.

17. コハナダカチビハナアブ

*Sphegina (Asiosphegina) nitidiforns* Stackenlberg, 1956

1♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園, サンショウ訪花.

18. キムラハナダカチビハナアブ

*Sphegina (Asiosphegina) sp. 8*

8♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園, サンショウ訪花; 1♂ 1♀, 30. IV. 2015, 大子町上野宮蛇穴, カエデ類訪花.

19. モンハナダカチビハナアブ

*Sphegina (Asiosphegina) sp. 9*

1♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園, サンショウ訪花.

日本産の本属で唯一, 翅の翅脈沿いが暗化して斑紋状となる. 湿地周辺で見られる.

20. ミカドハナダカチビハナアブ

*Sphegina (Sphegina) mikado* Mutin, 2001

1♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園, サンショウ訪花; 1♂, 30. IV. 2015, 大子町上野宮蛇穴, カエデ類訪花.

ナミハナアブ族 **Eristalini**

21. スルスミシマハナアブ

*Eristalis (Eoseristalis) japonica* van der Goot, 1964

2♀, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山, ノリウツギ訪花.

22. アシボソミケハラブトハナアブ

*Mallota munda* (Violovitsh, 1955)

1♂, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

23. マツムラハラブトハナアブ

*Mallota rubripes* Matsumura, 1916

1♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

従来, 体色に応じて *shirakii*, *yakushimana* などいくつかの種名でよばれていた種類.

ナガハナアブ族 **Milesiini**

24. ツマキモモブトハナアブ

*Criorhina apicalis* Matsumura, 1916

4♂, 2. V. 2015, 常陸大宮市・御前山大天狗林道, ウツギ訪花; 9♂ 2♀, 6. V. 2015, 北茨城市・大北溪谷付近, ウツギ訪花; 2♂, 6. V. 2015, 北茨城市関本町・定波, カエデ類訪花.

25. ナルミハナアブ

*Criorhina narumii* Shiraki, 1950

1♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園, カエデ訪花; 1♀, 6. V. 2015, 北茨城市・大北溪谷付近, ウツギ訪花; 2♂ 2♀, 6. V. 2015, 北茨城市関本町・定波, カエデ類訪花; 3♂ 2♀, 6. V. 2015, 北茨城市・花園溪谷, カエデ類訪花.

26. タカオハナアブ

*Criorhina takaoensis* (Shiraki, 1950)

1♀, 6. V. 2015, 北茨城市関本町・定波, カエデ類訪花.

27. キガオモモブトハナアブ

*Lejota ambigua* (Shiraki, 1968)

1♂, 12. IV. 2015, 水戸市・森林公園, 木道上.

28. コシアキモモブトハナアブ

*Matsumyia japonica* (Shiraki, 1930)

2♂, 2. V. 2015, 常陸大宮市・御前山大天狗林道, ウツギ訪花.

29. オオモモブトハナアブ

*Matsumyia jesoensis* (Matsumura, 1911)

1♂ 1♀, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

30. カオグロオオモモブトハナアブ

*Matsumyia nigrofacies* Shiraki, 1949

2♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

31. ヒメハチモドキハナアブ

*Takaomyia johannis* (Hervé-Bazin, 1915)

9♂, 4. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 4♂, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 5♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 3♂, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

32. ムツボシハチモドキハナアブ

*Takaomyia sexmaculata* (Matsumura, 1916)

4♂, 2. V. 2015, 水戸市・森林公園, ナラ類伐採木; 1♀, 2. V. 2015, 常陸大宮市・御前山大天狗林道, ウツギ訪花; 1♀, 6. V. 2015, 北茨城市関本町・定波, テネラル個体; 1♂ 2♀, 4. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 3♂ 2♀, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♀, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂ 1♀, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

33. ススバネナガハナアブ

*Temnostoma fumosum* Hull, 1944

1♂, 27. IV. 2015, 水戸市・森林公園; 1♀, 2. V. 2015, 水戸市・森林公園, ナラ類伐採木; 1♀, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♀, 4. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

34. ニトベナガハナアブ

*Temnostoma nitobei* (Matsumura, 1916)

3♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 3♂, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 6♂, 4. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

ハラナガハナアブ族 *Xylotini*

35. キガオハラナガハナアブ

*Brachypalpoidea flavifacies* (Shiraki, 1930)

2♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

倒木の根元に飛来し, 雌を待っている個体を採集した.

36. キアシハラナガハナアブ

*Brachypalpoidea simplex* (Shiraki, 1930)

1♂, 2. V. 2015, 水戸市・森林公園, ナラ類伐採木; 5♂ 1♀, 4. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 2♂, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

時折, 脚全体が黒色の個体が混じる.

37. クロハラナガハナアブモドキ

*Chalcosyrphus ambiguus* (Shiraki, 1968)

3♂ 3♀, 2. V. 2015, 水戸市・森林公園, ナラ類伐採木; 1♀, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 4♀, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

38. ハラアカハラナガハナアブ

*Chalcosyrphus frontalis* (Shiraki et Edashige, 1953)

2♂ 1♀, 2. V. 2015, 水戸市・森林公園, ナラ類伐採木; 2♂, 4. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

39. スカシバハラクロナガハナアブ

*Chalcosyrphus latifrons* (Shiraki et Edashige, 1953)

2♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 2♂, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

40. ヤマトクロハラナガハナアブ

*Chalcosyrphus nipponicus* Ichige, 2014

2♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 6♂, 22. VI. 2015, 大子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 7♂, 10. VII. 2015, 大子町・八溝山銀

性水付近, ブナ倒木.

41. フトクロハラナガハナアブ

*Chalcosyrphus* sp. 7t

1♂, 4. VI. 2015, 太子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

42. ホソクロハラナガハナアブ

*Chalcosyrphus* sp. 8t

1♂ 1♀, 4. VI. 2015, 太子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 22. VI. 2015, 太子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

43. ミヤマリイロハラナガハナアブ

*Xylota coquilletti* Herv-Bazin, 1914

1♂, 13. VI. 2015, 太子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 22. VI. 2015, 太子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木; 1♂, 10. VII. 2015, 太子町・八溝山銀性水付近, ブナ倒木.

近縁の *X. danieli* (= *amamiensis* Shiraki) ナミルリイロハラナガハナアブに混じって採れる.

2. そのほかの茨城県産双翅目について

4月27日の水戸市・森林公園では、咲遅れの1本のカエデの花に多数のメバエ類 (Conopidae) が集まっており、以下の種類を採集した。なお、メバエ類の場合ハナバチなどの成虫に内部寄生するため、花で得られた個体がほかの昆虫のように栄養補給に訪花していたのか、Hostを待ち伏せしていたのかの判断は困難である。

1. マダラメバエ

*Myopa buccata* (Linnaeus, 1758)

1ex.

2. チュンチョンマダラメバエ

*Myopa chuncheonensis* Stuke et Maeta, 2002

27exs.,

3. マエタマダラメバエ

*Myopa maetai* Stuke, 2002

2exs.

4. マダラメバエモドキ

*Myopotta kroeberi* Zimina, 1969

2exs.

引用文献

市毛勝義. 2002. 茨城県産ハナアブ分布資料. はなあぶ, (13): 73-86.

日本昆虫目録編集委員会 (編). 2014. 日本昆虫目録 第8巻双翅目日本昆虫目録. 日本昆虫学会. 1101 pp. + XXXII + XIV. 権歌書房.

2015年の双翅目昆虫の文献

市毛 (2002) で, *Paragus quadrifasciatus* Meigen, 1822 ノヒラマメヒラタアブとして報告した種類については, 市毛 (2015) により大陸産とは別種という見解となり, *Paragus claussemi* Mutin, 1999 ムチンシママメヒラタアブという種名に変更となった. なお, 同亜属には *Paragus fasciatus* シママメヒラタアブという種類が関東以西に分布しており, 県内の河川中・下流域にも分布している可能性が高い.

また, *Mallota shiraki* Peck, 1985 ツマキハラブトハナアブ (ツマキハナアブ) として県内より記録した種についても, Hirooka *et al.* (2015) により *Mallota rubripes* Matsumura, 1916 マツムラハラブトハナアブという種名に, *Mallota dimorpha* (Shiraki, 1930) フタガタハラブトハナアブは, *Mallota eristaliformis* Sack, 1910 という学名に変更となった.

田 悟 (2015) により, アシナガバエ科の *Gymnopternus* sp. 10 t ハンゲツアマネアシナガバエ, *Hercostomus* sp. 18 t ギンガククチヒゲアシナガバエ, *Argyra* sp. 2t ツルギシロガネアシナガバエが常陸大宮市より記録された. また, Negrobov *et al.* (2015) により, アシナガバエ科の *Chrysotus kumazawai* と *Chrysotus tagoi* の2種がつくば市産の標本を元に新種記載された. Negrobov *et al.* (2015b) により, *Dolichopus ibarakiensis* が土浦市宍塚大池産の標本により, *Dolichopus vicifursovi* がつくば市桜が丘産の標本により新種記載された.

市毛勝義. 2015. 日本産シママメヒラタアブ亜属について. はなあぶ, (40): 37-43.

Hirooka, T., M. Maruyama and F. C. Thompson, 2015. Revision of the flower fly genus *Mallota* Meigen, 1822 from Japan. *Jap. J. Syst. Ent.* 21 (2): 241-258.

Negrobov, O. P., O. O. Maslova and V. N. Fursov. 2015.  
New data on the genus *Chrysotus* Meigen, 1824  
(Diptera: Dolichopodidae) from Japan and Russia. *Far  
Eastern Entomologist*. 293: 10-15.

Negrobov, O. P., Kumazawa, T., Tago, T. and Maslova, O.

O. 2015b. Three new species of the genus *Dolichopus*  
Latreille, 1796 (Diptera Dolichopodidae) from Japan.  
*Caucasian Entomological Bulletin*, 11(1): 205–209.

田悟敏弘. 2015. 関東地方にて採集したアシナガ  
バエ科の記録 III. はなあぶ, (39): 105-135.

## トビケラ目 勝間 信之

### 2015年のトビケラ目昆虫の動向

2015年は茨城県久慈郡大子町の八溝山でマレーズトラップによる調査を実施した。調査期間は2015年3月29日から11月22日までで、場所は茨城県側の標高約800m付近の細流、調査回数は概ね2週間に1回トラップのボトルを回収し、マレーズトラップの設置から合わせると合計で述べ18回に及んだ(図1)。その結果、4,828個体、16科55種のトビケラ類が確認されたので報告する。なお、雌で種名が確定せず、ほかに同属が種レベルで記録されている種類については種番号から除いた。

調査回数毎のトビケラの捕獲数を図2、採集されたトビケラ類のリストを表1に示す。採集されたトビケラ類が最も多かった期間は5月23日から6月6日までで、その期間内の採集個体数は1,378個体のトビケラを確認した。また、7月5日の調査日は豪雨によりトラップが半壊したが、現地で多少の修繕の後、調査を続行した。9月にも鬼怒川を襲った豪雨に見舞われたが、トラップは壊れることなく調査を続行できた。採集された55種のトビケラ類のうち、茨城県初記録及び新たに再検討された合計13種のトビケラ類について以下に記す。なお、標本は筆者が概ね保管しているが、一部は他研究者に譲渡した。



図1. 八溝山でのマレーズトラップ設置状況。

### 採集されたトビケラ類

#### 1. コウノナガレトビケラ

*Rhyacophila kohnoae* Ross, 1956

5月後半から6月前半に1個体のみ確認された。

本種は勝間(2005, 2006)でキヨスミナガレトビケラ *Rhyacophila kiyosumiensis* Kuranishi, 1990の変異種として記録した種と同一種と思われるが、キヨスミナガレトビケラ原記載と異なり、10節の上部の縁を側面から見たときにやや上方へ反ること、服部(2005)で描かれたコウノナガレトビケラの交尾器の図がほぼ標本のものと一致することから、本報告では服部(2005)に従い、コウノナガレトビケラとして記録する。本種群を含め、本属は未記載種が多く、本属の全

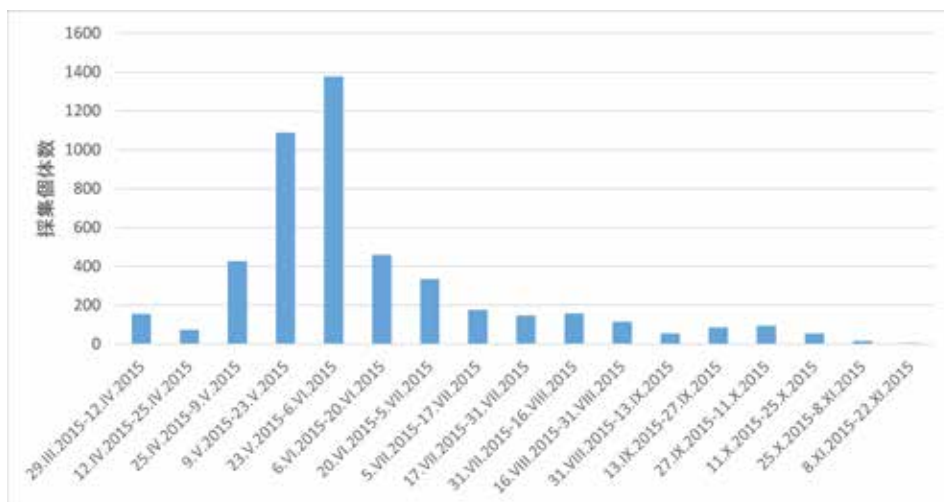


図2. 調査回毎のトビケラ捕獲数。

般的な分類学的検討が必要と思われる。

## 2. ナガレトビケラ属の一種

*Rhyacophila* sp. aff. *crassa*

茨城県初記録。4月後半から5月前半及び8月後半から10月前半に合計15個体が確認された。本種は会津地方で採集された標本を基に記載されたクラッサナガレトビケラ *Rhyacophila crassa* Schmid, 1970 に似るが、10節の形状、inferior appendage の形状が原記載の図と異なることから、未記載種と思われる。

## 3. ナガレトビケラ属の一種

*Rhyacophila* sp. (*kaltatica* Group)

茨城県初記録。4月後半から6月前半に合計47個体が確認された。ロシアで記載された *Rhyacophila kaltatica* Levanidova and Schmid, 1977 と同じ種群に属する未記載種と思われる。三重県でもおそらく同種と思われるものが採集されている（森田私信）。

## 4. カメノコヒメトビケラ

*Palaeagapetus ovatus* Ito & Hattori, 1986

茨城県初記録。4月後半から5月前半に1個体のみ確認された。標高のある山地の源頭部のみに生息する種類と思われる。次種に示すコガタカメノコヒメトビケラとの関東地方の混成地は少ないと思われ、八溝山は貴重な生息地と思われる。

## 5. コガタカメノコヒメトビケラ

*Palaeagapetus parvus* Ito, 1991

茨城県初記録。5月前半から6月前半に合計18個体が確認された。上記種同様に標高のある山地の源頭部のみに生息する種類と思われる。

## 6. ヤセコヤマトビケラ

*Agapetus yasensis* (Tsuda, 1942)

茨城県初記録。6月前半から8月後半に合計204個体が確認された。茨城県内では主に県北の山地の細流に生息していると思われる。

## 7. ノザキタニガワトビケラ

*Kisaura nozakii* (Kuhara, 1999)

茨城県初記録。8月半ばから9月後半に合計8個

体が採集された。近似種であるハットリタニガワトビケラ *Kisaura hattorii* (Kuhara, 1999) とは交尾器の形状が微妙に異なることから、2種の同定には注意が必要である。

## 8. トゲタニガワトビケラ属の一種

*Kisaura* sp. aff. *minakawai*

5月後半から7月前半に合計56個体が確認された。本種は *Kisaura minakawai* Arefina, 2005 に似るが交尾器に若干の差異があることから、未記載種の可能性があり、属までの同定に留めた。なお、種番号26のトゲタニガワトビケラ属の一種、2は勝間(2008)で報告した *Kisaura* 属の一種と同種である。

## 9. ジモトミヤマイトビケラ

*Plectrocnemia chirotheca* Nozaki, 2016

6月半ばから8月半ばに合計3個体が確認された。勝間(2006)で記録したノリクラミヤマイトビケラ *Plectrocnemia norikurana* Tsuda, 1942 は本種の誤同定である（勝間 2011, Nozaki *et al.* 2016）。また、勝間(2012)で記録したミヤマイトビケラ属の一種 *Plectrocnemia* sp. は本種である。

## 10. シロフマルバネトビケラ

*Phryganopsyche brunnea* Wiggins, 1969

茨城県初記録。4月後半から6月後半、9月半ばから後半及び11月前半から後半に合計25個体が確認された。茨城県内では同属のマルバネトビケラ *Phryganopsyche latipennis* (Banks, 1906) が県内の山地から丘陵地にかけて広く生息しているが、本種の県内の産地は限局されていると思われる。

## 11. カントウカクツツトビケラ

*Lepidostoma kantoense* (Ito, 1994)

茨城県初記録。4月後半から6月前半に合計41個体が確認された。茨城県内では主に県北の山地の細流に生息しているものと思われる。

## 12. ユガワラクロバネトビケラ

*Moropsyche yugawarana* Kobayashi, 1983

茨城県初記録。4月後半から7月後半に合計378個体が確認され、特に5月前半から6月前半にかけて多



くの個体が確認された。茨城県内では主に県北の山地の細流に生息していると思われる。

### 13. コヒゲナガトビケラ属の一種

*Adicella* sp.

7月半ばから8月半ばに2個体が確認された。

本種は2015年に四国の小田深山溪谷からの標本に基づき新種記載されたオダミヤマコヒゲナガトビケラ *Adicella odamiyamensis* Katsuma & Yamamoto, 2015の雌に酷似するが、その雄が今回の調査で確認されなかったこと、同属の茨城県高萩市滝ノ倉湿原をタイプ産地とするチョウモウコヒゲナガトビケラ *Adicella strigillata* Katsuma & Ito, 2013の雌が未記載であり、その雌の可能性もあることから、属レベルまでの同定に留めた。

### 謝 辞

ナガレトビケラ属の情報を提供していただいた三重県四日市市の森田久幸さんに感謝いたします。

### 引用文献

- 服部壽夫. 2005. ナガレトビケラ科. 川合禎次・谷田一三 (編) 日本産水生昆虫 科・属・種への検索. pp. 414-437, 東海大学出版会.
- 勝間信之. 2005. 茨城県内で確認したトビケラ類の記録 (第1報). るりぼし, (32): 2-10.
- 勝間信之. 2006. 茨城県内で確認されたトビケラ類の記録 (第2報) - 常陸大宮市 (旧御前山村) 相川のトビケラ相 -. るりぼし, (33): 33-44.
- 勝間信之. 2008. トビケラ目. 茨城県自然博物館総合

調査報告書 2007年茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向, pp. 37-39, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

勝間信之. 2011. 高萩市滝ノ倉湿原のトビケラ. るりぼし, (40): 67-68.

勝間信之. 2012. 常陸太田市岡見湿原で確認されたトビケラ成虫の記録. 茨城県自然博物館総合調査報告書 2011年茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向, pp. 63-68, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

Katsuma, N. & Yamamoto, E. 2015. A new species of the genus *Adicella* McLachlan (Trichoptera: Leptoceridae) from Japan. *Entomological Research Bulletin*, 31 (special issue: Bae Y. J. (ed.) Proceedings of 2nd BSA Symposium): 18-21.

Nozaki, T. Togashi, S. & Sato, T., 2016. The caddisfly fauna of a small spring brook in the Jimoto-yusui, Niigata, central Japan. *Zoosymposia*, 10: 323-330.

野崎隆夫. 2017. 日本産トビケラのリスト. <http://tobikera.eco.coocan.jp/names.htm> (アクセス日時, 2017年11月11日).

### 2015年のトビケラ目昆虫の文献

2015年に印刷及び公表された茨城県内におけるトビケラ目昆虫に関する文献は以下のものがある。茨城県及び福島県を流れる四時川でライトトラップ調査を行った結果, 54種のトビケラ類を確認した。

勝間信之. 2015. 茨城・福島県境を流れる四時川で採集したトビケラ. るりぼし, (44): 90-91.

表 1(1). 八溝山でのマレーズトラップで確認されたトビケラリスト (1).

№	科名	和名	学名	29.III.2015-12.IV.2015		12.IV.2015-25.IV.2015		25.IV.2015-9.V.2015		9.V.2015-23.V.2015		23.V.2015-6.VI.2015		6.VI.2015-20.VI.2015		20.VI.2015-5.VII.2015				
				♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀			
1	Rhyacophilidae Stephens	ナガレトビケラ科	クレメンスナガレトビケラ			1	3	1				6	3		3					
2			カウムラナガレトビケラ					2												
3			カワラボウナガレトビケラ									20	6	5	5					
4			コウノナガレトビケラ									1								
5			シコツナガレトビケラ																	
6			トワダナガレトビケラ						1	1		16	32	28						
7			トランスタイラナガレトビケラ						1											
8			ナガレトビケラ属の一種(未記載種)						2											
9			ナガレトビケラ属の一種(未記載種)						1	33		13								
-			ナガレトビケラ属の数種					2	13		43	39	13	7						
10	Hydrobiosidae Ulmer	カワリナガレトビケラ科	ツメナガレトビケラ									6	2	5	1	6	3			
11	Hydroptilidae Stephens	ヒメトビケラ科	カメノコヒメトビケラ					1												
12			コガタカメノコヒメトビケラ								2	14	2							
13	Glossosomatidae Wallengren	ヤマトビケラ科	ヤセコヤマトビケラ											58	23	27	45			
14			ツダコハウヤマトビケラ									18	4	41	40	64	105	3	45	
15			イブスヤマトビケラ			1	19	1	24	9	4	6	1	33	15	2	1			
16	Philopotamidae Stephens	カワトビケラ科	ミミタニガワトビケラ									4	4	143	116	40	3	30		
17			タニガワトビケラ属の一種(和名なし)									163	35	444	215	184	185	8	18	1
18			イトタニガワトビケラ			4	24	3	45	19	8	3	2							
19			タニガワトビケラ																1	
20			ノムギタニガワトビケラ			102	3	2		1										
21			シンボタニガワトビケラ							1	9	9	42	27	7	5	4			
22			トゲタニガワトビケラ属の一種(和名なし)																5	
23			ハツリタニガワトビケラ											59	18	52				
24			ノサキタニガワトビケラ																	
25			トゲタニガワトビケラ属の一種(未記載種?)											26	28	2				
26			トゲタニガワトビケラ属の一種(未記載種)									3	6							
-			トゲタニガワトビケラ属の一種(数)種										1	9	16	34				
27			ヒメタニガワトビケラ属の一種																1	
28	Psychomyiidae Walker	クダトビケラ科	キタクダトビケラ											1		1	1			
29			ホソクダトビケラ属の一種																	
30			ジモトミヤマイフトビケラ																1	
31			オンダケミヤマイフトビケラ								1	2								
-			ミヤマイフトビケラ属の一種(数)種											3						
32	Hydropsychidae Curtis	シマトビケラ科	アミメシマトビケラ											2	1	1	1			
33			ナミコガタシマトビケラ							1										
34			キブネミヤマシマトビケラ																1	5
35			ウルマーシマトビケラ									6	6	13	1					
36			シロフツヤトビケラ属の一種								1	24	1	31	11	2	2	11	5	
37	Phryganopsychidae Wiggins	マルバネトビケラ科	シロフマルバネトビケラ											4	1	1	7	2	5	2
38	Phryganeidae Leach	トビケラ科	ムラサキトビケラ																	
39	Brachycentridae Ulmer	カクスイトビケラ科	ニイガタツツトビケラ									2	3							
40			ハナセマルツツトビケラ																	
41			マルツツトビケラ																	
42	Lepidostomatidae Ulmer	カクツツトビケラ科	フヒゲカクツツトビケラ																	
43			オオカクツツトビケラ																	
44			カントウカクツツトビケラ																	
45			ナラカクツツトビケラ																	
46			サトウカクツツトビケラ																	
47			ツダカクツツトビケラ																	
-			カクツツトビケラ属の一種(数)種																	
48	Limnephilidae Kolenati	エグリトビケラ科	ウルマートビイロトビケラ																	
49	Apataniidae Wallengren	コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ																	
50			ユガワラクロバネトビケラ																	
51	Ulenoidea Iwata	クロツツトビケラ科	クロツツトビケラ																	
52	Leptoceridae Leach	ヒゲナガトビケラ科	ミツマタコヒゲナガトビケラ																	
53			コヒゲナガトビケラ属の一種																	
54	Odontoceridae Wallengren	フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ																	
55			フタジキソトビケラ																	
合計		16科																	55種	

トビケラ目

表 1(2). 八溝山でのマレーズトラップで確認されたトビケラリスト (2).

№	科名	和名	学名	5.VII.2015-17.VII.2015		17.VII.2015-31.VII.2015		31.VII.2015-16.VIII.2015		16.VIII.2015-31.VIII.2015		31.VIII.2015-13.IX.2015		13.IX.2015-27.IX.2015		27.IX.2015-1.X.2015	
				♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
1	Rhyacophilidae Stephens	ナガレトビケラ科	クレメンスナガレトビケラ	<i>Rhyacophila clemens</i>	Tsuda, 1940	5	2										
2			カワムラナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kawamurae</i>	Tsuda, 1940												
3			カワラボウナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kawaraboensis</i>	Kobayashi, 1976	3	1										
4			コウノナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kohnoae</i>	Ross, 1956												
5			シコツナガレトビケラ	<i>Rhyacophila shikotsuensis</i>	Iwata, 1927												
6			トウダナガレトビケラ	<i>Rhyacophila towadensis</i>	Iwata, 1927	7	6	1	17	16		4	3				
7			トランスクイラナガレトビケラ	<i>Rhyacophila transquilla</i>	Tsuda, 1940												
8			ナガレトビケラ属の一種(未記載種)	<i>Rhyacophila</i> sp. aff. <i>crassa</i>						1		8	4				
9			ナガレトビケラ属の一種(未記載種)	<i>Rhyacophila</i> sp. ( <i>kaltatica</i> Group)													
-			ナガレトビケラ属の数種	<i>Rhyacophila</i> spp.		5	2	2	10	9	19	3					
10	Hydrobiosidae Ulmer	カワリナガレトビケラ科	ツメナガレトビケラ	<i>Apsilochorema susthanum</i>	Martynov, 1934	1	2	1	1	1							
11	Hydroptilidae Stephens	ヒメトビケラ科	カメノコヒメトビケラ	<i>Palaeogapetus ovatus</i>	Ito & Hattori, 1986												
12			コガタカメノコヒメトビケラ	<i>Palaeogapetus parvus</i>	Ito, 1991												
13	Glossosomatidae Wallengren	ヤマトビケラ科	ヤセコヤマトビケラ	<i>Agapetus yusensis</i>	(Tsuda, 1942)	14	16	6	13	1	1						
14			ツダコハヤマトビケラ	<i>Electragapetus tsudai</i>	Ross, 1951												
15			イブスヤマトビケラ	<i>Glossosoma ussuricum</i>	(Martynov, 1934)	1	3										
16	Philopotamidae Stephens	カワトビケラ科	ミタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes auriculata</i>	Martynov, 1933	3	25	5									
-			タニガワトビケラ属の一種(和名なし)	<i>Dolophilodes dilatata</i>	Kuhara, 2005							2	3	1	1		
18			イロタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes iroensis</i>	(Kobayashi, 1980)	1		1	1	2	1	1	1	2			
19			タニガワトビケラ	<i>Dolophilodes japonica</i>	(Banks, 1906)												
20			ノムギタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes nomugiensis</i>	(Kobayashi, 1980)			9	26	13	5	2	3				
21			シンボタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes shinboensis</i>	(Kobayashi, 1980)	1	1										
22			トゲタニガワトビケラ属の一種(和名なし)	<i>Kisaura dichotoma</i>	Kuhara & Arefina, 2004	7	9	25	17	3	1						
23			ハットリタニガワトビケラ	<i>Kisaura hattori</i>	(Kuhara, 1999)	16	37	41	5	3	13	5					
24			ノゼキタニガワトビケラ	<i>Kisaura nozakii</i>	(Kuhara, 1999)				5		3						
25			トゲタニガワトビケラ属の一種(未記載種?)	<i>Kisaura</i> sp.1 aff. <i>minakawai</i>													
26			トゲタニガワトビケラ属の一種(未記載種)	<i>Kisaura</i> sp.2													
-			トゲタニガワトビケラ属の一種(数)種	<i>Kisaura</i> sp.(p).		25	27	33	26	2	3	2					
27			ヒメタニガワトビケラ属の一種	<i>Wormaldia</i> sp.													
28	Psychomyiidae Walker	クダトビケラ科	キタクダトビケラ	<i>Lype excisa</i>	Mey, 1991	2	7	1	4	3							
29			ホソクダトビケラ属の一種	<i>Tinodes</i> sp.				1									
30			ジモトミヤマイワトビケラ	<i>Plectrocnemia chirotheca</i>	Nozaki, 2016			1	1								
31			オランダケミヤマイワトビケラ	<i>Plectrocnemia ondateana</i>	Tsuda, 1942												
-			ミヤマイトビケラ属の一種(数)種	<i>Plectrocnemia</i> sp.(p).		1		1									
32	Hydropsychidae Curtis	シマトビケラ科	アミシマトビケラ	<i>Arctopsyche spinifera</i>	Ulmer, 1907												
33			ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche infascia</i>	Martynov, 1934												
34			キブネミヤマシマトビケラ	<i>Diplectrona kibuneana</i>	Tsuda, 1940	3	4	3	2	2							
35			ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	Martynov, 1934												1
36			シロフツヤトビケラ属の一種	<i>Parapsyche</i> sp.		3		2	5	1	2	3	9				
37	Phryganopsychidae Wiggins	マルバネトビケラ科	シロアママルバネトビケラ	<i>Phryganopsyche brunnea</i>	Wiggins, 1969								1	1			
38	Phryganecidae Leach	トビケラ科	ムラサキトビケラ	<i>Eubasilissa regina</i>	(McLachlan, 1871)				4	1							
39	Brachycentridae Ulmer	カクスイトビケラ科	ニイタツツトビケラ	<i>Eobrachycentrus niigatai</i>	(Kobayashi, 1968)												
40			ハナセマルツツトビケラ	<i>Micrasema hanasense</i>	Tsuda, 1942	3	1	2	1	1							
41			マルツツトビケラ	<i>Micrasema quadriوبا</i>	Martynov, 1933												
42	Lepidostomatidae Ulmer	カクツツトビケラ科	フトヒゲカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma complicatum</i>	(Kobayashi, 1968)		7										
43			オオカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma crassicornis</i>	(Ulmer, 1907)												
44			カントウカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma kantoense</i>	(Ito, 1994)												
45			ナラカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma naraense</i>	(Tani, 1971)			2	1	2	1						
46			サトウカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma satoi</i>	(Kobayashi, 1968)												
47			ツダカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma tsudai</i>	(Tani, 1971)												
-			カクツツトビケラ属の一種(数)種	<i>Lepidostoma</i> sp.(p).			1		8	2	2	1					
48	Limnephilidae Kolanati	エグリトビケラ科	ウルマートビイロトビケラ	<i>Nothopsyche ulmeri</i>	Schmid, 1952												
49	Apataniidae Wallengren	コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ	<i>Apatania aberrans</i>	(Martynov, 1933)												
50			ユガワクロバネトビケラ	<i>Moropsyche yugawana</i>	Kobayashi, 1983	1	1										
51	Uenoidea Iwata	クロツツトビケラ科	クロツツトビケラ	<i>Uenoa tokunagai</i>	Iwata, 1927												
52	Leptoceridae Leach	ヒゲナガトビケラ科	ミツマタコヒゲナガトビケラ	<i>Adicella trichotoma</i>	Ito & Kuhara, 2013	1	5		3								
53			コヒゲナガトビケラ属の一種	<i>Adicella</i> sp.				1	1								
54	Odontoceridae Wallengren	フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ	<i>Perisoneura paradoxa</i>	McLachlan, 1871		4										
55			フタスジキソトビケラ	<i>Psilotreta kisoensis</i>	Iwata, 1928	7	2	6	1								
合計	16科				55種												

表 1(3). 八溝山でのマレーズトラップで確認されたトビケラリスト (3).

№	科名	和名	学名	11.X.2015-25.X.2015		25.X.2015-8.XI.2015		8.XI.2015-22.XI.2015	
				♂	♀	♂	♀	♂	♀
1	Rhyacophilidae Stephens	ナガレトビケラ科	クレメンスナガレトビケラ	<i>Rhyacophila clemens</i>	Tsuda, 1940				
2			カウムラナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kawamurae</i>	Tsuda, 1940				
3			カワボウナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kawarabensis</i>	Kobayashi, 1976				
4			コウノナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kohnoae</i>	Ross, 1956				
5			シコツナガレトビケラ	<i>Rhyacophila shikotsuensis</i>	Iwata, 1927			1	1
6			トワダナガレトビケラ	<i>Rhyacophila towadensis</i>	Iwata, 1927				
7			トランスタイヤナガレトビケラ	<i>Rhyacophila transquilla</i>	Tsuda, 1940				
8			ナガレトビケラ属の一種(未記載種)	<i>Rhyacophila</i> sp. aff. <i>crassa</i>					
9			ナガレトビケラ属の一種(未記載種)	<i>Rhyacophila</i> sp. ( <i>kaliatica</i> Group)					
-			ナガレトビケラ属の数種	<i>Rhyacophila</i> spp.			1		
10	Hydrobiosidae Ulmer	カワリナガレトビケラ科	ツメナガナガレトビケラ	<i>Apilochorema sutshanum</i>	Martynov, 1934				
11	Hydroptilidae Stephens	ヒメトビケラ科	カメノコヒメトビケラ	<i>Palaeogapetus ovatus</i>	Ito & Hattori, 1986				
12			コガタカメノコヒメトビケラ	<i>Palaeogapetus parvus</i>	Ito, 1991				
13	Glossosomatidae Wallengren	ヤマトビケラ科	ヤセコヤマトビケラ	<i>Agapetus yasensis</i>	(Tsuda, 1942)				
14			ツダコハウヤマトビケラ	<i>Electrogapetus tsudai</i>	Ross, 1951				
15			イブスヤマトビケラ	<i>Glossosoma ussuricum</i>	(Martynov, 1934)				
16	Philopotamidae Stephens	カワトビケラ科	ミタニカワトビケラ	<i>Dolophilodes auriculata</i>	Martynov, 1933	22	24	3	4
17			タニガワトビケラ属の一種(和名なし)	<i>Dolophilodes dilatata</i>	Kuhara, 2005				
18			イロタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes iroensis</i>	(Kobayashi, 1980)				
19			タニガワトビケラ	<i>Dolophilodes japonica</i>	(Banks, 1906)				
20			ノムギタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes nomugiensis</i>	(Kobayashi, 1980)		1		
21			シンボタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes shinboensis</i>	(Kobayashi, 1980)		4	2	3
22			トゲタニガワトビケラ属の一種(和名なし)	<i>Kisaura dichotoma</i>	Kuhara & Arefina, 2004				
23			ハツリタニガワトビケラ	<i>Kisaura hattorii</i>	(Kuhara, 1999)				
24			ノザキタニガワトビケラ	<i>Kisaura nozaki</i>	(Kuhara, 1999)				
25			トゲタニガワトビケラ属の一種(未記載種?)	<i>Kisaura</i> sp.1 aff. <i>minakawai</i>					
26			トゲタニガワトビケラ属の一種(未記載種)	<i>Kisaura</i> sp.2					
-			トゲタニガワトビケラ属の一種(数)種	<i>Kisaura</i> sp(p).					
27			ヒメタニガワトビケラ属の一種	<i>Wormaldia</i> sp.					
28	Psychomyiidae Walker	クダトビケラ科	キタクダトビケラ	<i>Lype excisa</i>	Mey, 1991				
29			ホソクダトビケラ属の一種	<i>Tinodes</i> sp.					
30			ジメトミヤマイフトビケラ	<i>Plectrocnemia chiroteca</i>	Nozaki, 2016				
31			オンダケミヤマイフトビケラ	<i>Plectrocnemia ondaakeana</i>	Tsuda, 1942				
-			ミヤマイフトビケラ属の一種(数)種	<i>Plectrocnemia</i> sp(p).					
32	Hydropsychidae Curtis	シマトビケラ科	アミシマトビケラ	<i>Arctopsyche spinifera</i>	Ulmer, 1907				
33			ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche infascia</i>	Martynov, 1934				
34			キブネミヤシマトビケラ	<i>Diplectrona kibuneana</i>	Tsuda, 1940				
35			ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	Martynov, 1934				
36			シロフツヤトビケラ属の一種	<i>Parapsyche</i> sp.					
37	Phryganopsychidae Wiggins	マルバネトビケラ科	シロフマルバネトビケラ	<i>Phryganopsyche brunnea</i>	Wiggins, 1969				1
38	Phryganeidae Leach	トビケラ科	ムラサキトビケラ	<i>Eubasilissa regina</i>	(McLachlan, 1871)				
39	Brachycentridae Ulmer	カクスイトビケラ科	ニイガタツツトビケラ	<i>Eobrachycentrus niigatai</i>	(Kobayashi, 1968)				
40			ハナセマルツツトビケラ	<i>Micrasema hanasense</i>	Tsuda, 1942				
41			マルツツトビケラ	<i>Micrasema quadriloba</i>	Martynov, 1933				
42	Lepidostomatidae Ulmer	カクツツトビケラ科	フヒゲカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma complicatum</i>	(Kobayashi, 1968)				
43			オオカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma crassicomae</i>	(Ulmer, 1907)				
44			カントウカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma kantoense</i>	(Ito, 1994)				
45			ナラカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma naraense</i>	(Tani, 1971)				
46			サトウカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma satoi</i>	(Kobayashi, 1968)				
47			ツダカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma tsudai</i>	(Tani, 1971)			1	1
-			カクツツトビケラ属の一種(数)種	<i>Lepidostoma</i> sp(p).			2		
48	Limnephilidae Kolenati	エグリトビケラ科	ウルマートビイロトビケラ	<i>Nothopsyche ulmeri</i>	Schmid, 1952			1	
49	Apataniidae Wallengren	コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ	<i>Apatania aberrans</i>	(Martynov, 1933)				
50			ユガワラクロバネトビケラ	<i>Moropsyche yugawarana</i>	Kobayashi, 1983				
51	Ulenoidae Iwata	クロツツトビケラ科	クロツツトビケラ	<i>Uenoa tokunagai</i>	Iwata, 1927				
52	Leptoceridae Leach	ヒゲナガトビケラ科	ミツマタコヒゲナガトビケラ	<i>Adicella trichotoma</i>	Ito & Kuhara, 2013				
53			コヒゲナガトビケラ属の一種	<i>Adicella</i> sp.					
54	Odontoceridae Wallengren	フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ	<i>Perisoneura paradoxa</i>	McLachlan, 1871				
55			フタスジキントビケラ	<i>Psilotreta kisoensis</i>	Iwata, 1928				
合計	16科								55種

和名・学名及び種の配列は野崎 2017に従った。

## チョウ目 (チョウ類)

佐々木 泰弘

### 2015年のチョウ目昆虫 (チョウ類) の動向

2015年度に注目した3種のチョウ及びその他のいくつかの注目種について報告する。

#### 1. エルタテハ *Nymphalis vaualbum* (Denis et Schiffermüller, 1775) の採集記録

エルタテハの茨城県における記録は、確実なものとしては1966年北茨城市・花園山山の神からの記録のみである。今回、八溝山より記録することができたが、それには、疋田氏の採集情報 (疋田直之, 2015a) が大きく関わっている。疋田氏より3月29日に福島県の沢沿い500m付近で採集したという情報を得た。茨城県内でも可能性があると考え、県内の腐沢に似た環境で同じ標高付近を調査したわけである。本種は亜高山性の種であり、これまでは八溝山の山頂近くで見つけようとしてきたが発見出来なかった。県北山地の同じような環境地域を調査していく必要性を感じている。

#### 2015年採集記録 (佐々木, 2015a)

1♀, 31. III. 2015, 大子町・腐沢林道, 佐々木泰弘。



図1. エルタテハ確認地点.  
● : 茨城県 (佐々木) 確認地点.  
◎ : 福島県 (疋田) 確認地点.

#### 2. ウスバシロチョウ *Parnassius citrinarius* Motschulsky, 1866 の分布拡大

2014年に茨城県内で27年ぶりに再記録された種である。隣接県からの分布拡大という状況の中で八溝山の茨城側で確認できたものである。2014年は6地点で確認できたが、2015年は2地点の確認となった。2014年度の6地点のうち、2015年に再確認できたのは蛇穴の1地点のみであった。2015年の確認地点の残り1地点は、大子町方面へ3kmほどいった本宮である。これは分布が減少したようにも思えるが、2014年はすべて雄個体であったところ、2015年の地点では雌も確認でき産卵行動も確認できた。特に蛇穴は個体数も多く一度に10個体以上を確認した。このことを考えると2014年の確認地点は分散中の個体が見られた地点がほとんどであったのではないかと考えられる。今後も大子町方面へ分布拡大していくことが考えられる。注意してみていく必要がある。



図2. ウスバシロチョウ確認地点.  
⑭ : 2014年確認地点.  
⑮ : 2015年確認地点.

2015年採集記録

1♂, 14. V. 2015, 本宮, 佐々木泰弘; 1♀, 17. V. 2015, 本宮, 佐々木泰弘 (その他産卵行動中のメスを2頭確認); 1♂ 1♀, 17. V. 2015, 蛇穴, 佐々木泰弘 (その他産卵行動中のメスを3頭, ほか合計10個体以上を確認).

3. アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (Linnaeus, 1758) の分布拡大

本種は外来種であるが, 2011年に筑西市で確認されてから県南西地域を中心に確認報告が出され, 2014年には県北地区の太子町・男体山山頂でも確認された. 図3のように, 2015年も分布を拡大し, 県北の日立市, 常陸太田市, 県央の水戸市, 城里町でも確認された. 鹿島行方地域を除く広い地域に分布を広げたと思われる (有賀, 2015b; 疋田, 2015b; 井上, 2015e; 佐々木, 2015b; 染谷・渡辺, 2015).

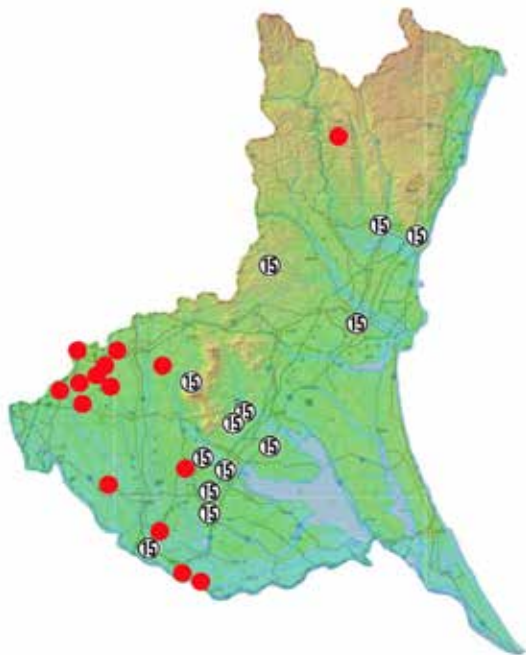


図3. アカボシゴマダラ確認地点.  
● 2014以前の確認地点.  
⑮ 2015年の確認地点.

4. その他の注目種

1. チャマダラセセリ

*Pyrgus maculatus* (Bremer et Grey, 1852)

1♂1♀, 28. VII. 2015, 北茨城市華川町花園・小川, 佐々木.

交尾個体を確認し撮影した. ここには今年も, 県

内外から採集者が多数訪れていた. 採集圧の影響が心配され, 早急の保護が望まれる.

2. ホシチャバネセセリ

*Aeromachus inachus* (Ménétrières, 1858)

1♂, 28. VII. 2015, 常陸太田市里川宿, 佐々木泰弘.  
近年減少傾向が激しい種である.

3. ギンイチモンジセセリ

*Leptalina unicolor* (Bremer et Grey, 1852)

1ex, 6. IX. 2015, 水戸市・十万原, 佐々木泰弘.



図4. ギンイチモンジセセリ (201年月日, , 佐々木泰弘撮影).

第3化個体と思われる個体であった.

4. ウラミスジジミ

*Wagimo signatus* (Butler, [1882])

1ex, 5. VI. 2015, 水戸市・森林公園, 佐々木泰弘.

5. ウスイロオナガシジミ

*Antigius butleri* (Fenton, [1882])

1ex, 25. VI. 2015, 高萩市・土岳山頂,  
県内での新産地である.

6. エゾミドリシジミ

*Favonius jezoensis* (Matsumura, 1915)

2♂, 25. VI. 2015, 高萩市・土岳小滝沢登山口,  
有賀俊司.

7. オオムラサキ

*Sasakia charonda charonda* (Hewitson, [1863])

4幼虫, 23. I. 2016, 水戸市・十万原, 佐々木泰弘;  
10幼虫, 13. II. 2016, 水戸市飯富町, 佐々木泰弘.

8. オオヒカゲ

*Ninguta schrenckii* (Ménétrières, 1858)

1♂1♀, 28. VII. 2014, 北茨城市華川町花園・小川,  
佐々木泰弘.

交尾個体を確認, 撮影した.

2015年チョウ目昆虫(チョウ類)の文献

- 青木好明. 2015. 茨城県結城市産オオムラサキの異常個体2例. おけら, (68): 125-126.
- 荒川 正. 2015. 虫を追いかけて-2014-. おけら, (68): 113-117.
- 有賀俊司. 2015. 北茨城市山間部でのヒメシロチョウの記録. おけら, (68): 129.
- 有賀俊司. 2015. 2015年阿武隈山地におけるアカボシゴマダラの記録. るりぼし, (44): 113.
- 軍司 平. 2015. 水戸市常磐町でシータテハを採集. るりぼし, (44): 114.
- 疋田直之. 2015. 八溝山地から採集されたエルタテハについて. るりぼし, (44): 110-111.
- 疋田直之. 2015. 水戸市におけるアカボシゴマダラの記録. るりぼし, (44): 113.
- 井上大成. 2015. 茨城県南部の平野部からのウラギンヒョウモンの追加記録. るりぼし, 44:109
- 井上大成. 2015. つくば市の平地でコツバメを目撃. るりぼし, (44): 109.
- 井上大成. 2015. かすみがうら市(旧千代田町)でツマグロキチョウを採集. るりぼし, (44): 109-110.
- 井上大成. 2015. オオミドリシジミ蛹の枯れ枝トラップ. るりぼし, (44): 110.
- 井上大成. 2015. 茨城県南部におけるアカボシゴマダラの記録. るりぼし, (44): 111-112.
- 小菅次男. 2015. 筑波山頂のクジャクチョウの記録. るりぼし, (44): 114-115.
- 小菅次男. 2015. ツマグロキチョウの記録. るりぼし, (44): 115.
- 黒田克己. 2015. キベリタテハを目撃し写真撮影. おけら, (68): 127.
- 野崎 武. 2015. 2013・14年 私の蝶観察日誌から. おけら, (68): 80-102.
- 大阿久義徳. 2015. チャマダラセセリを飼育して. おけら, (68): 121.
- 大橋恒夫. 2015. 蝶採集紀行綴りⅢ(2010年～2014年). おけら, (68): 54-79.
- 塩田正寛. 2015. 茨城の蝶. 自刊: 803 pp.
- 塩田正寛. 2015. 茨城のイチモンジセセリ. おけら, (68): 41-53.
- 佐々木泰弘. 2015. エルタテハを茨城県で採集. るりぼし, (44): 107-108.
- 佐々木泰弘. 2015. 常陸太田市・かすみがうら市におけるアカボシゴマダラの記録. るりぼし, (44): 113.
- 染谷 保・渡辺 健. 2015. 城里町でアカボシゴマダラを目撃. るりぼし, (44): 112.
- 高橋晴彦. 2015. 蝶の異常産卵2例. おけら, (68): 122-124.
- 山田伸太郎・山田洋一. 2015. 茨城県北部山地におけるゼフィルス生態調査. るりぼし, (44): 92-101.

## チョウ目 (ガ類)

林 恵治・佐藤 和明

### 2015年のチョウ目昆虫 (ガ類) の動向

#### 1. 調査活動総括

今年、定点調査地の一つである八溝山を2人で重点的に調査し、山頂付近に自生するダケカンバを食す蛾や、関東では山地性の分布とされる蛾の発見に努めた。また、林は稲敷市浮島の霞ヶ浦沿岸で沼沢地の植生に依存する蛾の調査に着手した。

そのほか、今井初太郎氏が県北各地で精力的に蛾の採集を試みて下さり、2014年の記録 (今井, 2015) と2015年の記録 (今井, 2016) を提供頂き、その中に32種の茨城初記録種があった。

その結果、2014年末時点で茨城の蛾として確認していた1,559種 (林・佐藤, 2015) に一気に80種もの初記録種を追加することができ、2015年末時点で茨城の蛾は1,639種となった。

さらに、これまで1例しか正式記録のない蛾の2例目の採集記録や、分布が限定される種の継続発生の確認、さらに産地が限定される種の新たな産地の発見などの成果をあげることができた。

従来からの定点調査地である宍塚大池と筑波山、取手市でも回数は少なかったが調査を行い、追加記録がいくつかあった。

その結果、2015年末時点では筑波山で726種、取手市では423種の蛾を記録している。

特に8月8日から9日にかけて筑波山で実施された博物館主催の夜間採集会では、7種の茨城初記録の蛾を採集することができ、多大な成果をあげることができた。また、若手の蛾研究者との交流の機会もあり、有意義な採集会であった。

#### 2. 茨城県初記録種の紹介

次に2015年に新たに確認した茨城県初記録80種について紹介する。

##### ヒゲナガガ科 Adelidae

##### 1. ツマモンヒゲナガ

*Nemophora ochsenheimerella* (Hübner, [1813])

1 ex., 22. V. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.

##### ハマキガ科 Tortricidae

##### 1. イヌエンジュヒメハマキ

*Olethreutes ineptanus* (Kennel, 1901)

1 ex., 22. V. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.

##### 2. ニセコシワヒメハマキ

*Neoanathamna nipponica* (Kawabe, 1976)

1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

##### 3. フタオビホソハマキ

*Eupoecilia citrinana* Razowski, 1960

1 ex., 20. VIII. 2015, 稲敷市浮島, 林恵治.

関東地方では山地性だが、今回平地の霞ヶ浦の岸辺で採れた。ただ、食草のナガボノワレモコウは山地の湿地に自生地が多いが、低地でも自生するので、今後採集地付近で食草の自生を追認する。

##### ヒラタマルハキバガ科 Depressariidae

##### 1. デコボコマルハキバガ

*Depressaria irregularis* Matsumura, 1931

1 ex., 20. VII. 2015, 稲敷市浮島, 林恵治.

##### マルハキバガ科 Oecophoridae

##### 1. スジモンキマルハキバガ

*Depressaria irregularis* Matsumura, 1931

1 ex., 19. VII. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.

##### 2. ヤシヤブシキホリマルハキバガ

*Casmara agronoma* Meyrick, 1931

1 ex., 8. VIII. 2015, つくば市・筑波山御幸ヶ原, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

##### シンクイガ科 Carposinidae

##### 1. コブシロシンクイ

*Meridarchis excisa* (Walsingham, 1900)



1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

**イラガ科 Limacodidae**

1. ウストビイラガ

*Ceratonema sericeum* (Butler, 1881)

2 exs., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

**メイガ科 Pyralidae**

1. クロスジキノメイガ

*Acropentias aurea* (Butler, 1878)

1 ex., 27. VI. 2015, つくば市白井, 林恵治.

2. フタモンキニセノメイガ

*Evergestis junctalis* (Warren, 1892)

1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

北海道では普通種だが, 本州での記録は少ない.

3. スカシトガリノメイガ

*Cotachena pubescens* (Warren, 1892)

1 ex., 22. VIII. 2015, 稲敷市浮島, 林恵治.

4. ハナダカノメイガ

*Camptomastix hisbonalis* (Walker, 1859)

1♀, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

5. トガリシロアシクロノメイガ

*Omiodes indistinctus* (Warren, 1892)

2♂, 8. VIII. 2015, つくば市・筑波山御幸ヶ原, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

6. ゴボウノメイガ

*Ostrinia zealis* (Guenée, 1854)

1♀, 23. V. 2015, 稲敷市浮島, 林恵治.

幼虫はゴボウの害虫として知られる普通種であるが, 公式な採集記録がなかった.

7. ウンモンシロノメイガ

*Togabotys fuscolineatalis* Yamanaka, 1978

1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

マンサクを食す山地性の種.

8. マエジロギンマダラメイガ

*Pseudacrobasis nankingella* Roesler, 1975

1♀, 8. VIII. 2015, つくば市・筑波山御幸ヶ原, 林

**カギバガ科 Drepanidae**

1. ウスギヌカギバ

*Macrocilix mysticata* (Walker, [1863])

2♂, 8. VIII. 2015, つくば市・筑波山御幸ヶ原, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

2. ウスベニトガリバ

*Monothyatira pryeri* (Butler, 1881)

1♂ 1♀, 9. IV. 2014, 北茨城市関本町小川・定波, 今井初太郎.

3. フタテンシロカギバ

*Ditrigona virgo* (Butler, 1878)

1 ex., 23. V. 2015, 土浦市・穴塚大池, 佐藤和明.

4. ウスムラサキトガリバ

*Epipsestis perornata* Inoue, 1972

1♀, 24. X. 2014, 大子町・八溝山, 今井初太郎.

5. タケウチトガリバ

*Betapsestis umbrosa* (Wileman, 1911)

1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

**シヤクガ科 Geometrida**

1. コアヤシヤク

*Pingasa pseudoterpnaria* (Guenée, 1857)

1♂, 30. IV. 2015, 大子町北富田・つつじヶ丘, 今井初太郎.

2. オオシロオビアオシヤク

*Geometra papilionaria* (Linnaeus, 1758)

1♀, 12. VII. 2015, 大子町小生瀬, 今井初太郎.  
ヤマハンノキ・ダケカンバ・シラカンバを食す山地性の種.

3. スジモンツバメアオシヤク

*Maxates albistrigata* (Warren, 1895)

1♀, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

関東地方では山地性の種.

4. ギンスジアオシヤク

*Comibaena argentataria* (Leech, 1897)

1♀, 2. VII. 2015, 大子町北富田, 今井初太郎.

5. ウスウラナミヒメシヤク

*Scopula longicerata* Inoue, 1955

- 1 ex., 22. V . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.  
採集記録少なく, 稀な種.
6. フチベニヒメシヤク  
*Idaea jakima* (Butler, 1878)  
1 ex., 11. IX . 2015, 取手市小文間, 林恵治.
7. ウスミドリコバネナミシヤク  
*Trichopteryx miracula* Inoue, 1942  
1♂, 9. IV . 2014, 北茨城市関本町小川・定波, 今井初太郎.
8. アオナミシヤク  
*Leptostegna tenerata* Christoph, 1881  
1♂, 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.  
トドマツを食す関東地方では山地性の種.
9. ニッコウナミシヤク  
*Amoebotricha grataria* (Leech, 1891)  
1♀, 8. XI . 2015, つくば市臼井, 林恵治.  
関東地方では山地性だが, 筑波山の南麓 (標高200m) で採集した.
10. アミメナミシヤク  
*Eustroma reticulatum* (Denis & Schiffermüller, 1775)  
1 ex., 31. V . 2015, 大子町小生瀬, 今井初太郎.  
関東地方では山地性の種.
11. クロオビナミシヤク  
*Pennithera comis* (Butler, 1879)  
1♂, 29. X . 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎.
12. マンサクシロナミシヤク  
*Asthenes hamadryas* Inoue, 1976  
1♀, 8. VIII . 2015, つくば市・筑波山御幸ヶ原, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.  
マンサクを食す関東地方では山地性の種.
13. キマダラシロナミシヤク  
*Asthenes octomaculata* Leech, 1897  
1♀, 22. V . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.  
関東地方では山地性の種.
14. キイロナミシヤク  
*Pseudostegania defectata* (Christoph, 1881)  
1♀, 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.
15. コカバスジナミシヤク  
*Martania fulvida* (Butler, 1881)
- 1 ex., 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.
16. ハラアカウスアオナミシヤク  
*Chloroclystis obscura* West, 1929  
1 ex., 23. V . 2015, 土浦市・宍塚大池, 佐藤和明.
17. シロズエダシヤク  
*Ecpetelia albifrontaria* (Leech, 1891)  
2♀, 3. V . 2015, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎.
18. ウラキトガリエダシヤク  
*Hypephyra terrosa* Butler, 1889  
1♀, 5. VII . 2014, 大子町北富田・つつじヶ丘, 今井初太郎.
19. プライヤエダシヤク  
*Arichanna pryeraria* Leech, 1891  
1 ex., 22. V . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.
20. ニセオレクギエダシヤク  
*Protoarmia faustinata* (Warren, 1897)  
1 ex., 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.
21. コケエダシヤク  
*Alcis jubata* (Thunberg, 1788)  
1 ex., 11. VIII . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.  
本州以南では主として1,000m以上の山地に産する.
22. ヨツメエダシヤク  
*Ophthalmitis albosignaria* (Bremer & Grey, 1853)  
1♀, 20. VII . 2015, 大子町北富田・つつじヶ丘, 今井初太郎.
23. シナトビスジエダシヤク  
*Paradarisa consonaria* (Hübner, [1799])  
1♂ 1♀, 19. X . 2014, 桜川市真壁町羽鳥, 今井初太郎.
24. シロモンキエダシヤク  
*Parectropis similaria* (Hufnagel, 1767)  
1♀, 18. VI . 2014, 高萩市中戸川・名馬里ヶ淵, 今井初太郎.
25. チャマダラエダシヤク  
*Amblychia insueta* (Butler, 1878)  
1♂, 26. VII . 2014, 大子町・八溝山, 今井初太郎.
26. ツマキウスグロエダシヤク  
*Scionomia anomala* (Butler, 1881)

1♀, 19. IX . 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山,  
今井初太郎.

27. テンモンチビエダシヤク

*Ocoelophora lentiginosaria* (Leech, 1891)

1 ex., 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

28. ウスムラサキエダシヤク

*Selenia adustaria* Leech, 1891

1♂, 22. V . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.

シャチホコガ科 **Notodontidae**

1. ニッコウシャチホコ

*Shachia circumscripta* (Butler, 1885)

1♂, 31. V . 2015, 大子町小生瀬, 今井初太郎.

2. アオセダカシャチホコ

*Rabta splendida* (Oberthür, 1880)

1♀, 31. V . 2014, 大子町・八溝山, 今井初太郎.

3. アマギシャチホコ

*Eriodonta amagisana* (Marumo, 1933)

4♂, 3. V . 2014, 大子町・八溝山, 今井初太郎.

ブナを食す山地性.

4. カエデシャチホコ

*Semidonta biloba* (Oberthür, 1880)

1♂, 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

ドクガ科 **Lymantriidae**

1. アカモンドクガ

*Telochurus recens* (Hübner, [1819])

1♂, 18. VI . 2014, 高萩市中戸川・名馬里ヶ淵, 今井初太郎.

2. ハラアカマイマイ

*Lymantria fumida* Butler, 1877

1♀, 11. VII . 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎.

カラマツの害虫として知られる.

3. フタホシドクガ

*Nygmia staudingeri* (Leech, [1889])

1♀, 7. VIII . 2015, 北茨城市関本町小川・定波, 今井初太郎.

コブガ科 **Nolidae**

1. カバイロコブガ

*Nola aerugula* (Hübner, 1793)

1 ex., 16. VIII . 2015, 桜川市真壁町羽鳥, 林恵治.

2. シロフチビコブガ

*Manoba microphasma* (Butler, 1885)

1 ex., 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

3. ハネモンリンガ

*Kerala decipiens* (Butler, 1879)

2 exs., 13. VI . 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

ヤマハンノキ・ダケカンバを食す.

4. カバイロリンガ

*Hypocarea conspicua* (Leech, 1900)

1♀, 10. V . 2014, 大子町小生瀬, 今井初太郎.

ブナを食す.

ヤガ科 **Noctuidae**

1. シロフヒメケンモン

*Gerbathodes paupera* (Staudinger, 1892)

1 ex., 23. VIII . 2014, 大子町下野宮, 元吉杏那.

2. ハコベヤガ

*Xestia kollari* (Lederer, 1853)

2♂, 19. IX . 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎.

3. キンイロキリガ

*Clavipalpula aurariae* (Oberthür, 1880)

1♂, 10. V . 2014, 大子町小生瀬, 今井初太郎.

4. ムラサキミツボシキリガ

*Eupsilia unipuncta* Scriba, 1919

1 ex., 23. XI . 2013, 大子町・八溝山, 今井初太郎.

5. ホソバハガタヨトウ

*Meganephria funesta* (Leech, [1889])

1♂, 29. X . 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今井初太郎.

6. テンスジウスキヨトウ

*Coenobia orientalis* Sugi, 1982

1 ex., 20. VI . 2015, 稲敷市浮島, 林恵治.

7. ムラサキアカガネヨトウ

*Euplexia koreaeplexia* Bryk, 1949

1♀, 8. VIII . 2015, つくば市・筑波山御幸ヶ原, 林恵

- 治・佐藤和明・釣巻岳人.
8. ウグイスセダカヨトウ  
*Mormo cyanea* Sugi, 1982  
1♂, 15. VI. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山,  
今井初太郎.  
関東地方では山梨県しか記録がない稀な種.
9. ヒトテンヨトウ  
*Chalconyx ypsilon* (Butler, 1879)  
1♀, 15. VI. 2014, 常陸太田市下高倉町・武生山,  
今井初太郎.
10. コフサヤガ  
*Eutelia adaltricoides* (Mell, 1943)  
1♀, 7. IV. 2014, 水戸市下国井町, 今井初太郎.
11. ベニエグリコヤガ  
*Holocryptis nymphula* (Rebel, 1909)  
1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐  
藤和明・釣巻岳人.
12. キモンコヤガ  
*Koyaga numisma* (Staudinger, 1888)  
1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐  
藤和明・釣巻岳人.
13. アサマクビグロクチバ  
*Lygephila vulcana* (Butler, 1881)  
1♂, 19. VIII. 2015, 常陸太田市下高倉町・武生山,  
今井初太郎.
14. ウンモンキシタバ  
*Chrysothrum flavomaculatum* (Bremer, 1861)  
2♂, 5. VI. 2014, 常陸太田市上村田・やすらぎの森,  
今井初太郎.
15. ウスベニツマキリアツバ  
*Tamba gensanalis* (Leech, 1889)  
1♂, 3. V. 2015, 常陸太田市下高倉町・武生山, 今  
井初太郎.  
東海地方以西に分布する南方系種.
16. シロモンツマキリアツバ  
*Pangrapta umbrosa* (Leech, 1900)  
1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐  
藤和明・釣巻岳人.
17. ソトキイロアツバ  
*Oglaa bifidalis* (Leech, 1889)  
1♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤  
和明・釣巻岳人.

- ブナを食す山地性で少ない種.
18. シモフリヤマガタアツバ  
*Bomolocha benepartita* Sugi, 1982  
1 ex., 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐  
藤和明・釣巻岳人.
19. マルバネウスグロアツバ  
*Hydrillodes pacificus* Owada, 1982  
1 ex., 3. V. 2015, 常陸太田市下高倉町・武生山,  
林恵治.  
関東地方南部以西に分布するとされる南方系種.

### 3. 注目種・希少種の採集記録

1. ビロードハマキ  
*Cerace xanthocosma* Diakonoff, 1950  
1♂, 4. X. 2015, 取手市戸頭, 林恵治 (目撃).  
北上を続ける南方系の種で県内では2000年に筑  
波山で初めて記録されて以降各地で採集例が増えて  
いる種. 取手市では2010年以降確実に定着してい  
る.
2. フタスジフユシャク  
*Inurois asahinai* Inoue, 1974  
1♂, 6. XII. 2013, つくば市・筑波山 (標高770m 付  
近), 佐藤和明. (夜間飛翔)  
3♂, 30. XII. 2015, つくば市・筑波山 (標高750m  
付近), 佐藤和明. (昼間飛翔)  
関東地方では山地性のフユシャクで, 本県では  
1989年に高萩市で記録されていたが, その後2013  
年に北茨城市関本町 (今井, 2015) 及び2015年に  
筑波山頂 (佐藤, 2015) より記録された. なお, 今  
回の筑波山頂での記録は昼間飛翔中を採集したもの  
である. フユシャクに関する著書 (中島, 1986) に  
は, 本種が昼間にも活動するとの記載があり, 生態  
上貴重な記録である.
3. ホシベッコウカギバ  
*Derocha inconclusa* (Walker, 1856)  
2♀, 23. VI. 2014, 北茨城市関本町小川・定波, 今  
井初太郎.  
1995年に石岡市 (旧八郷町) 難台山で初記録  
されて以来 (林, 1996) 2例目の記録. ヤマボウシ  
を食すが, ヤマボウシは県内山地に広く自生してお  
り, 今後の追加記録は増えるものと思う.
4. コウチスズメ

*Smerinthus tokyonis* Matsumura, 1921

1♂, 13. VI. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

本県で2例目の記録。ドウダンツツジを食べる。ドウダンツツジは山地に自生するため、これまで山地の調査が遅れていたことにより、採集記録が少なかつたと思われる。

隣接する千葉県でも記録は少ない種との報告がある(鈴木, 2012)。ちなみに本県初記録は、龍ヶ崎市長山の蛇沼公園であった(林, 2008)。

5. エゾシモフリスズメ

*Meganoton analis* (Felder, 1874)

1♂, 20. VI. 2015, 稲敷市浮島, 林恵治.

ホオノキ・コブシを食べる山地性の種で、筑波山では多産する種だが、霞ヶ浦沿岸で採集できた。おそらく採集地近くの和田公園植栽から発生したものと思われる。

6. マエジロシャチホコ

*Notodonta albicosta* (Matsumura, 1920)

1♂, 19. VII. 2015, 大子町・八溝山, 林恵治.

茨城県版レッドデータブック(茨城県生活環境部, 2001)で希少種とされているが、八溝山では継続して発生を確認している。今後ほかの地域の産地発見に努めたい。

7. ヤマダカレハ

*Kunugia yamadai* Nagano, 1917

2♂, 19. X. 2014, 桜川市真壁町羽鳥, 今井初太郎.

1幼虫, 25. VII. 2015, 坂東市大崎・茨城県自然博物館敷地内, 中川裕喜.

土浦市・宍塚大池では継続して発生を確認している。県内他地域での確認がしばらくできずにいたが、今回新たに2つの地域で確認ができた。

8. ナンカイカラスヨトウ

*Amphipyra horiei* Owada, 1996

1 ex., 8. VIII. 2015, つくば市・筑波山御幸ヶ原, 林恵治・佐藤和明・釣巻岳人.

関東地方以西に分布する種で、本県では2011年土浦市・宍塚大池で初めて記録された(2011年総合報告書)。同地ではその後も記録されていたが(2 exs., 15. VII. 2012, 佐藤和明), 今回新たな産地、筑波山で記録され、本種の県南部での分布が確実となった。

4. 発生時期に関する新知見

1. ヒコサンカバナミシヤク

*Eupithecia antivulgaria* Inoue, 1965

1 ex., 18. I. 2015, つくば市白井, 佐藤和明.

中島・矢崎(2011)によれば、関東地方では、10～11月に発生するとされる。

2. ノコメトガリキリガ

*Telorta divergens* (Butler, 1879)

1 ex., 23. XII. 2015, 取手市井野台, 林恵治(目撃).

枝・四方(2011)によれば、10～11月に発生し、成虫越冬しないとされる。恐らく自宅庭のツバキで発生した個体が、暖冬の影響で生き延びたものと思われる。

3. ウリキンウワバ

*Anadevidia peponis* (Fabricius, 1775)

1 ex., 25. XI. 2015, つくば市白井, 林恵治.

坂巻(2013)によれば、発生時期は本州では7月から10月とされる。やはり暖冬の影響と思われる。

引用文献

- 茨城県生活環境部環境生活課. 2001. 茨城県版レッドデータブック. 101 pp.
- 佐藤和明. 2015. 筑波山でフタスジフユシヤクを採集. るりぼし, (44): 115.
- 今井初太郎. 2015. 茨城県県央, 県北の蛾類. おけら, (68): 13-40.
- 今井初太郎. 2016. 2015年蛾類の記録. おけら, (69): 34-46.
- 中島秀雄. 1986. 冬尺蛾. 221 pp. 築地書館.
- 林 恵治. 2008. 取手市などで採集したガ類の記録. 56 pp. ミュージアムパーク茨城県博物館.
- 林 恵治・佐藤和明. 2015. 2014年茨城県の昆虫類および無脊椎動物の動向チョウ目(ガ類). 57 pp. ミュージアムパーク茨城県博物館.
- 林 恵治. 1996. ガの採集記録2例, るりぼし, (20): 73-74.
- 鈴木智史. 2012. 千葉市若葉区千城台北でコウチスズメを採集. 房総の昆虫, (50): 32.
- 中島秀雄・矢崎克己. 2011. シヤクガ科, 岸田泰則(編). 日本産蛾類標準図鑑(I). 292 pp., 学研教育出版.

枝恵太郎・四方圭一郎. 2011. ヤガ科. 岸田泰則(編).  
日本産蛾類標準図鑑（Ⅱ）. 360 pp. 学研教育出版.  
上田達也. 2013. 1 マルハキバガ科. 広渡俊哉・那  
須義次・坂巻祥孝・岸田泰則（編）. 日本産蛾類  
標準図鑑（Ⅲ）. 217 pp. 学研教育出版.

#### 2015年のチョウ目昆虫（ガ類）の文献

今井初太郎. 2015. 茨城県央, 県北の蛾類. おけら,  
(68): 13-40.

神保宇嗣他. 2015. 2014年の蛾界を振り返って.  
月刊むし, (531): 38.

ヒロバウスアオエダシャクの分布は東海地方以西  
とされていたが, 「2010年以降筑波山で継続発生」  
と紹介される.

斉藤 修. 2015. 清澄山系でビロードキリガを採集.  
房総の昆虫, (56): 60.

ビロードキリガについて, 「千葉県未記録種だが,  
茨城県では既に記録がある」と紹介される.

## 茨城県自然博物館構内およびその周辺の虫えい

茅根 重夫

### 虫えい（虫瘿）について

植物の葉・茎・根や芽などが昆虫やダニなどの小さな虫に寄生されて変形したものを虫えい(虫こぶ)という。日本におけるまとまった文献としては「蟲瘿と蟲瘿昆蟲」(進士, 1944)や「日本原色虫えい図鑑」(湯川・榊田, 1976) などがある。県内で見られる虫えいについてはクコフシダニに関する茅根(1966, 1968)の報告がある。今回は茨城県自然博物館およびその周辺の虫えいの調査結果を報告する。以下の報文の虫えいの名称等は日本原色虫えい図鑑に従った。参考までに虫えいの写真(1種のみ図)を載せる。

### 採集確認された虫えい

#### 1. ハルニレハフクロフシ

寄主植物：ハルニレ *Ulmus davidiana* var. *japonica*.

えい形成生物：オカボノクロアブラムシ。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨城県自然博物館(以下, 茨自博と略す) 構内の林。

虫えい：ハルニレの葉の表面に形成される袋状の虫えい。黄緑または赤色で、大きさは約1 cm, 表面は不規則な凹凸のある形(図1)。

#### 2. イスノキハタマフシ

寄主植物：イスノキ *Distylium racemosum* .

えい形成生物：ヤノイスアブラムシ。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内の林。

虫えい：イスノキの葉の表面にできる大きさ約8 mmの半球形の虫えい(図2)。裏面にも円錐形に突出する。表面は黄色から赤色でつやがある。

#### 3. ケヤキハフクロフシ

寄主植物：ケヤキ *Zelkova serrata*.

えい形成生物：ケヤキヒトスジワタムシ。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内の林。



図1. ハルニレハフクロフシ。



図2. イスノキハタマフシ。



図3. ケヤキハフクロフシ。

虫えい：ケヤキの葉の表面にできる袋状の虫えい。細い柄がある。高さがやく10 mm, 巾は約5 mmで緑色(図3)。

4. クリメコブズイフシ

寄主植物：クリ。

えい形成生物：クリタマバチ。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内の林。

虫えい：クリの新芽がこぶ状に肥大したもの(図4)。

丸または紡錘形で大きさは約 15 mm, 内部は固く, 数個の幼虫室がある。クリタマバチはクリの大害虫。



図4. クリメコブズイフシ。

5. クリハイボフシ

寄主植物：クリ *Castanea crenata*。

えい形成生物：クリフシダニ。

調査日および地点：13. VI. 2006, 坂東市・菅生沿岸の林； 22. V. 2015, 茨自博構内の林。

虫えい：クリの葉の表面に大きさ約 1 mm の小さなイボ状の虫えいがびっしりと分布(図5)。葉の表面へは半球形に突出し, 裏面へはつぼ状で中央にダニの出入孔がある。虫えい内部には多数のフシダニが生息している。



図5. クリハイボフシ。

6. シロダモハコブフシ

寄主植物：シロダモ *Neolitsea sericea*。

えい形成生物：シロダモタマバエ。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内林； 22. II. 2015, 坂東市岩井・中根地区の林。

虫えい：葉の表面, 裏面ともに丸くいぼ状に突出, 大きさは3~4 mm で表面側の方がやや円錐形で尖っている(図6)。黄緑色。内部に丸い幼虫室があり, 幼虫が1匹入っている。



図6. シロダモハコブフシ。

7. アキニレハクフクロフシ

寄主植物：アキニレ *Ulmus parvifolia*。

えい形成生物：アキニレヨスジワタムシ。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内の林。

虫えい：葉表につくられる袋状の虫えい(図7)。高さが約 8 mm で表面はデコボコしている。赤色が多い。



図7. アキニレハクフクロフシ。

8. アキニレヒメハマキフシ

寄主植物：アキニレ *Ulmus parvifolia*。

えい形成生物：アキニレワタムシ。

調査日および地点：2015.5.22, 茨自博構内の林。

虫えい：葉が裏側に巻かれた形が多い(図8)。内部



にワタムシが生息している。

#### 9. エノキハイボフシ

寄主植物：エノキ *Celtis sinensis*.

えい形成生物：フシダニの一種。

調査日および地点：19. VII. 2008, 坂東市岩井・中根地区の林。

虫えい：葉表に不規則な形に突出した袋状の虫えい。長さは約5 mm。表面は黄緑色で、一般に平滑。裏面は凹んでフシダニの出入孔となっている（図9）。虫えい内部は長い毛が生えており、その間にフシダニが生息している。



図8. アキノレヒメハマキムシ。

#### 10. エノキハトガリタマフシ

寄主植物：エノキ *Celtis sinensis*.

えい形成生物：エノキトガリタマバエ。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内林；2. VI. 2006, 坂東市岩井・中根地区の林。

虫えい：エノキの葉の表裏および葉柄などのできる円錐形の虫えい（図10）。大きさは約4 mmで表面は緑色で平滑、内部の幼虫室に幼虫が1匹入っている。



図9. エノキハイボフシ。

#### 11. カシハイボケフシ

寄主植物：シラカシ *Quercus myrsinifolia*.

えい形成生物：フシダニの一種。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内の林。

虫えい：葉の表面へは直径2～3 mm、高さ約1 mmほどに半球形に膨らみ、裏面は丸く凹んで、内部に白色の柔毛を密生する（図11）。フシダニはこの毛の間に生息するが、生息密度は低い。



図10. エノキハトガリタマフシ。

#### 12. アカメヤナギハベリマキフシ

寄主植物：アカメヤナギ *Salix chaenomeloides*.

えい形成生物：フシダニの一種。

調査日および地点：22. V. 2015, 茨自博構内の林。

虫えい：葉のへりが葉表側に折り巻かれた形の虫えいで（図12）、その部分の葉の表裏とも緑白色の長毛が生えており、その長毛の間にフシダニが生息している。



図11. カシハイボケフシ。

13. イヌシデメフクレフシ

寄主植物：イヌシデ *Carpinus tschonoskii*.

えい形成生物：ソロメフクレダニ (フシダニ類).

調査日および地点：15. VI. 2006. 茨自博構内の林.

虫えい：頂芽の鱗片が肥大して、一つの芽が松かさ状に膨らんだもの (図 13). その鱗片の間に多数のフシダニが生息している.



図 12. アカメヤナギハバリマキフシ.

14. クコハフクレフシ

寄主植物：クコ *Lycium chinense*.

えい形成生物：クコフシダニ.

調査日および地点：3. VI. 2006, 常総市鬼怒川の岸.

虫えい：葉の表裏両面に直径 1～5 mm の丸く膨らんだ虫えい (図 14). 裏面の膨らみのはやや凹んで中央にフシダニの出入孔が開いている. 虫えい内部は広く、側壁の細胞は柔毛状となり、そこに多数のフシダニが生息.

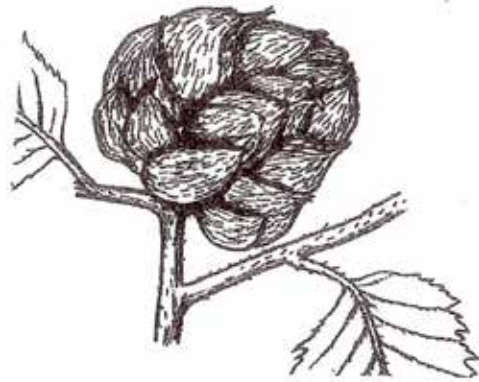


図 13. イヌシデメフクレフシ. (湯川・柁田, 1996)

15. クヌギハヒメツボタマフシ

寄主植物：クヌギ *Quercus acutissima*.

えい形成生物：クヌギハヒメツボタマバチ.

調査日および地点：23. VII. 2008, 坂東市上出島・大明神の森.

虫えい：葉裏に直径約 2 mm, 高さ約 1 mm の遍球形をした虫えい (図 15). 1 枚の葉に多数生じ、虫えいの表面は桃赤色で微毛が密生する. 内部の虫室は 1 個で 1 幼虫が見られる.



図 14. クコハフクレフシ.

16. クヌギエダイガフシ

寄主植物：クヌギ *Quercus acutissima*.

えい形成生物：クヌギエダイガタマバチ.

調査日および地点：坂東市上出島・大明神の森.

虫えい：クヌギの枝にできる大きさが 1～2 cm ほどのいがぐり状の形をした虫えい (図 16) は木質で固く表面に多数の房状の長毛が生えている. 内部は複雑で、1 虫室に 1 幼虫が見られる.



図 15. クヌギハヒメツボタマフシ.

17. ヌルデハイボケフシ

寄主植物：ヌルデ *Rhus javanica* var. *chinensis*.

えい形成生物：ヌルデフシダニ.

調査日および地点：1. VIII. 2015, 坂東市岩井・中根地区の林.

虫えい：葉の表面にできる大きさ5 mm ほどのいぼ状に突出した形の虫えい（図17）。いぼの形は不規則で、裏面は凹み、その内面に白色長毛を密生する。フシダニはその長毛の間に生息しているが数は少ない。

18. ナラハウラマルタマフシ

寄主植物：コナラ *Quercus serrata*.

えい形成生物：ナラハウラマルタマバチ。

調査日および地点：28. VII. 2008, 坂東市上出島・大明神の森。

虫えい：葉の裏面に直径約4 mm の球形をした虫えい（図18）。白色または桃赤色で光沢がある。葉脈上に生じ、内部は1室で1幼虫が見られる。

19. エゴノキヒラタマルフシ

寄主植物：エゴノキ *Styrax japonica*.

えい形成生物：エゴタマバエ。

調査日および地点：23. VII. 2008, 坂東市上出島・大明神の森。

虫えい：葉の表面にできる直径約2～3 mm で、円形またはだ円形に膨らんだ虫えい（図19）。葉の表面ではやや平たいが裏面は中央部がやや尖った形をしている。

引用文献

- 進士織平. 1944. 蟲癭と蟲癭昆虫. 580 pp., 春陽堂.  
茅根重夫. 1966. クコとクコフシダニの観察. 遺伝, 20: 60-63.  
茅根重夫. 1968. クコに寄生するクコフシダニに関する二・三の生態的観察. *Acta Arachnologica*, 21(2): 43-52.  
湯川淳一・梶田 長. 1996. 日本原色虫えい図鑑. 826 pp., 全国農村教育協会.



図16. クヌギエダイガフシ.



図17. ヌルデハイボケフシ.



図18. ナラハウラマルタマフシ.



図19. エゴノキヒラタマルフシ.

## 日本産洞穴性カニムシ類

坂寄 廣

日本産洞穴性カニムシの分類に関する研究は、そのほとんどが森川國康博士によってなされたものである。Morikawa (1954, 1956, 1957, 1960, 1962) と Harvey (1991, 2013) の文献をもとに、日本から報告されている洞穴性カニムシの種(亜種)の一覧を、その産地とともにまとめて示した。各種(亜種)の和名は佐藤(1993)による。

洞穴性の動物とは、もともと地表に生息していた動物種が洞穴に迷い込み、そのままそこで生息するようになったものと考えられているが、それらの動物には、眼が退化し、色素がなくなって白化し、小型化もしくは触角や脚が長くなっているといった、いくつかの共通点をもつ独特の形態をもっている。

カニムシ類はもともと土壌性のものから様々な環境に適応分散していったと考えられているが、日本産の洞穴性カニムシはその大部分が土壌性カニムシと同じ属もしくはそれに近い属に含まれている。

上野はその著書(上野, 1978)の中で、洞穴性の動物には2つのタイプがあると指摘している。そのひとつは、森林土壌中に生息していたものが、土中の狭い隙間を縫って行動するように適応し、地中種の段階をへて洞穴のような深い場所へ住み着いたと考えられるタイプである。それらの特徴として、「常に体が小さく、ずんぐりした体つきで、触覚や脚が短い」という。

もうひとつは、大きな石の下などに住み着いた種類が、土壌の下の岩の隙間で生活するようになったタイプである。それらの特徴としては、「地中種と比較して、「脚や触角が細長く、細い体で一般には体が大きい」という。

カニムシ類ではその形態から、前者のグループとして *Mundochthonius* 属が当てはまり、後者のグループとして *Allochthonius*, *Pseudotyrannochthonius*, *Parobisium*, *Pararoncus* の各属が該当すると考えられる。

例外的に、*Megachernes* 属のオオヤドリカニムシ

およびその亜種は、マルハナバチの巣やネズミやモグラの巣や、その体に付着している状態で採集されることが多い。すなわち、ほかの動物に付着して移動したり食物を得たりするように進化したグループが、たまたま洞穴に侵入するコウモリなどに付着して入り込み、その場で生活をするようになったものと考えられている。

### <付表>

#### 日本産洞穴生活性カニムシ種一覧

#### カニムシ目 *Pseudoscorpionida*

#### ツチカニムシ亜目 *Chthoniinea*

#### オウギツチカニムシ科 *Pseudotyrannochthoniidae*

#### オウギツチカニムシ属(仮称) *Allochthonius*

#### 1. ホラオウギツチカニムシ

*Allochthonius (Allochthonius) opticus troglophilus*

Morikawa, 1956

基準産地：熊本県, 岐阜県.

その他の産地：なし.

#### 2. フタツメウロツチカニムシ

*Allochthonius (Urochthonius) biocularis* Morikawa,

1956

基準産地：大分県.

その他の産地：なし.

#### 3. イシカワツチカニムシ

*Allochthonius (Urochthonius) ishikawai ishikawai*

Morikawa, 1954

基準産地：高知県(龍河洞).

その他の産地：なし.

#### 4. アキヨシシロツチカニムシ

*Allochthonius (Urochthonius) ishikawai deciclavatus*

Morikawa, 1956

基準産地：山口県.

その他の産地：なし.

#### 5. ツクシツチカニムシ

*Allochthonius (Urochthonius) ishikawai kyushuensis*

Morikawa, 1960

基準産地：福岡県，宮崎県.

その他の産地：山口県.

6. イヨシロツチカニムシ

*Allochthonius (Urochthonius) ishikawai shiragatakiensis*

Morikawa, 1954

基準産地：愛媛県 (Shiragataki-do).

その他の産地：なし.

7. コマカドシロツチカニムシ

*Allochthonius (Urochthonius) ishikawai uenoi*

Morikawa, 1956

基準産地：静岡県.

その他の産地：なし.

8. ウヤマアナツチカニムシ

*Allochthonius (Urochthonius) ishikawai uyamadensis*

Morikawa, 1954

基準産地：岡山県.

その他の産地：なし.

## ホラアナツチカニムシ属 (仮称)

*Pseudotyranochthonius*

1. キタカミメクラツチカニムシ

*Pseudotyranochthonius undecimclavatus undecimclavatus* (Morikawa, 1956)

基準産地：岩手県.

その他の産地：なし.

2. カントウメクラツチカニムシ

*Pseudotyranochthonius undecimclavatus kishidai* (Morikawa, 1960)

基準産地：東京都，群馬県.

その他の産地：長野県.

3. スズカメクラツチカニムシ

*Pseudotyranochthonius kobayashii kobayashii* (Morikawa, 1956)

基準産地：滋賀県.

その他の産地：三重県.

4. アキヨシメクラツチカニムシ

*Pseudotyranochthonius kobayashii akiyoshiensis* (Morikawa, 1956)

基準産地：山口県.

その他の産地：なし.

5. トロガワツチカニムシ

*Pseudotyranochthonius kobayashii dorogawaensis*

(Morikawa, 1956)

基準産地：奈良県.

その他の産地：なし.

6. ナナツガワメクラツチカニムシ

*Pseudotyranochthonius kubotai* (Morikawa, 1954)

基準産地：長崎県.

その他の産地：なし.

## ツチカニムシ科 Chthoniidae

## ツチカニムシ亜科 Chthoniinae

カプトツチカニムシ属 (仮称) *Mundochthonius*

1. コガタメクラツチカニムシ

*Mundochthonius japonicus imadatei* Morikawa, 1956

基準産地：鹿児島県.

その他の産地：なし.

2. オオメクラツチカニムシ

*Mundochthonius japonicus tripartitus* Morikawa, 1956

基準産地：大分.

その他の産地：三重県，熊本県.

## コケカニムシ亜目 Neobisiinea

## コケカニムシ科 Neobisiidae

## コケカニムシ亜科 Neobisiinae

コケカニムシ属 (仮称) *Parobisium*

1. ホラアナガミコケカニムシ

*Parobisium anagamidense anagamidense* (Morikawa, 1957)

基準産地：愛媛県.

その他の産地：なし.

2. アナガミオコケカニムシ

*Parobisium anagamidense morikawai* Harvey, 1991

基準産地：福岡県.

その他の産地：宮崎県.

## ツノカニムシ科 Syarinidae

ツノカニムシ属 (仮称) *Pararoncus*

1. シロツノカニムシ

*Pararoncus chamberlini* (Morikawa, 1960)

基準産地：奈良県.

その他の産地：なし.

2. オオイヌツノカニムシ

*Pararoncus oinuanensis* (Morikawa, 1957)

基準産地：群馬県.

その他の産地：なし.

3. ヨシイツノカニムシ

*Pararoncus yosii* (Morikawa, 1960)

基準産地：宮崎県.

その他の産地：なし.

4. ヨウザワツノカニムシ

*Pararoncus uenoi* (Morikawa, 1957)

基準産地：東京都.

その他の産地：なし.

5. ラカンツノカニムシ

*Pararoncus rakanensis* (Morikawa, 1957)

基準産地：愛媛県.

その他の産地：なし

キカニムシ亜目 **Cheliferinea**

ヤドリカニムシ科 **Chernetidae**

オオヤドリカニムシ属 (仮称) **Megachernes**

1. オオヤドリカニムシ

*Megachernes ryugadensis ryugadensis* Morikawa,  
1954

基準産地：高知県.

その他の産地：なし.

2. ナイカイオオヤドリカニムシ

*Megachernes ryugadensis naikaiensis* Morikawa,  
1957

基準産地：広島県.

その他の産地：岡山県, 愛媛県, 熊本県.

参考文献

- Harvey, M. S. 1991. Catalogue of the Pseudoscorpionida. *Manchester University Press*, Manchester, 726pp.
- Harvey, M. S. 2013. Pseudoscorpions of the world, version 3.0. Western Australian Museum, Perth. <http://www.museum.wa.gov.au/catalogues-beta/pseudoscorpions>.
- Morikawa, K. 1954. On some pseudoscorpions in Japanese lime-grottoes. *Memoirs of Ehime University*, (2B) 2: 79-87.
- Morikawa, K. 1956. Cave pseudoscorpions of Japan (I). *Memoirs of Ehime University*, (2B) 2: 271-282.
- Morikawa, K. 1957. Cave pseudoscorpions of Japan (II). *Memoirs of Ehime University*, (2B) 2: 357-365.
- Morikawa, K. 1960. Systematic studies of Japanese pseudoscorpions. *Memoirs of Ehime University*, (2B) 4: 85-172.
- Morikawa, K. 1962. Ecological and some biological notes on Japanese pseudoscorpions. *Memoirs of Ehime University*, (2B) 4: 417-435.
- 上野俊一・鹿島愛彦. 1978. 洞窟学入門. 講談社. 233 pp.
- 佐藤英文. 1993. カニムシ目. 日本産野生生物目録, 無脊椎動物編 I. 環境庁編. pp.77-81.

## 茨城陸生無脊椎動物研究会員一覧

- 市毛 勝義\* (水戸市)  
井上 尚武\* (茨城県立高萩高等学校)  
榎本 友好 (牛久市役所)  
大桃 定洋\* (稲敷郡阿見町)  
勝間 信之\* (㈱環境研究センター)  
岸本 亨 (つくば国際大学医療保健学部保健栄養学科)  
坂寄 廣\* (つくば市)  
櫻井 浩\* (小美玉市)  
佐々木泰弘\* (茨城県立太田第一高等学校)  
佐藤 和明\* (穴塚の自然と歴史の会)  
鈴木 雷太 (古河市)  
茅根 重夫\* (坂東市)  
成田 行弘\* (茨城生物の会)  
林 恵治\* (サントリー ㈱)  
疋田 直之 (水戸葵陵高等学校)  
久松 正樹\* (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)  
廣瀬 誠\* (水戸市)  
松本 嘉幸\* (芝浦工業大学柏中学高等学校)  
山根 爽一\* (茨城県生物多様性センター)  
渡辺 健\* (茨城県病害虫防除所)

\*…執筆者

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology  
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum  
- Trends of Insects and Other Terrestrial Invertebrates in 2015 -

Edited by Ibaraki Nature Museum  
November 2017

茨城県自然博物館総合調査報告書  
2015年 茨城県の昆虫類およびその他の陸生無脊椎動物の動向  
平成29年11月30日発行

編集 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

発行 ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
館長 横山 一巳  
〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700  
Tel 0297-38-2000

©2017 Ibaraki Nature Museum

(本書掲載記事および写真の無断転載を禁じます。)